

工 事 名 : 川田浄水場第 1 期拡張工事 (土木建築)

位 置 : 国 頭 郡 東 村 字 川 田 地 内

## 工 事 図 面

- 凝 集 沈 殿 池 -

令 和 6 年 度

東 村 役 場 建 設 環 境 課

# 図 面 目 録

## ( 土 木 建 築 ) 凝 集 沈 殿 池

図 面 目 録			
番 号	図 面 名 称	番 号	図 面 名 称
2 5 - 0 1	建築工事特記仕様書 (1/4)	2 5 - 2 1	配 筋 図 5 / 9
2 5 - 0 2	建築工事特記仕様書 (2/4)	2 5 - 2 2	配 筋 図 6 / 9
2 5 - 0 3	建築工事特記仕様書 (3/4)	2 5 - 2 3	配 筋 図 7 / 9
2 5 - 0 4	建築工事特記仕様書 (4/4)	2 5 - 2 4	配 筋 図 8 / 9
2 5 - 0 5	位置図・全体配置図	2 5 - 2 5	配 筋 図 9 / 9
2 5 - 0 6	構 造 図 1 / 4		
2 5 - 0 7	構 造 図 2 / 4		
2 5 - 0 8	構 造 図 3 / 4		
2 5 - 0 9	構 造 図 4 / 4		
2 5 - 1 0	詳 細 図 1 / 3		
2 5 - 1 1	詳 細 図 2 / 3		
2 5 - 1 2	詳 細 図 3 / 3		
2 5 - 1 3	構造設計特記仕様書		
2 5 - 1 4	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)		
2 5 - 1 5	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)		
2 5 - 1 6	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)		
2 5 - 1 7	配 筋 図 1 / 9		
2 5 - 1 8	配 筋 図 2 / 9		
2 5 - 1 9	配 筋 図 3 / 9		
2 5 - 2 0	配 筋 図 4 / 9		

建築工事特記仕様書〔 建築工事編 〕 沖縄県土木建築部			
令和5年7月改定版			
1 工事概要			
(1)工 事 名：川田浄水場第1期拡張工事（凝集沈殿池）			
(2)工 事 場 所：国頭郡東村字川田内地（地域地区等：都市計画区域外 未指定）			
(3)敷 地 面 積：㎡			
(4)工 事 種 目：			
ア 建築物			
建築物の名称			
主要用途		浄水場	
構造及び階数		WRC造地下1階地上1階	
工事種別		新築	
建築面積		126.49 ㎡	㎡
延べ面積		191.42 ㎡	㎡
イ 工作物及び立木			
工作物等の名称			
数量			
2 本工事の設計時期			
本工事の設計書は、令和 年 月時点での沖縄県土木建築部建築工事積算基準及び公共工事設計労務単価等に基づいて作成している。			
3 建築工事仕様			
(1)標準仕様			
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」[令和4年版]（以下「標準仕様書」という。）による。			
(2)特記仕様			
ア 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。			
イ 特記事項は、「・」に○印の付いたものを適用する。			
「・」に○印がつかない場合は「※」のついたものを適用する。			
「・」と「※」に○印がついた場合は共に適用する。			
ウ 項目及び特記事項に記載の（ ） 内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。			
エ 特記事項に記載の（参 ）は、標準仕様書の参考資料4各部位配筋参考図の当該項目を示す。			
4 その他			
(1)公共事業労務費調査に対する協力			
ア 本工事が公共事業労務費調査の対象工事となった場合、調査票等に必要事項を正確に記入し、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の完成後においても、同様とする。			
イ 調査票等を提出した事業所を事後に訪問して行う調査・指導等の対象になった場合、その実施に協力しなければならない。また、本工事の完成後においても、同様とする。			
ウ 公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従って就業規則を作成するとともに、賃金台帳を調製・保存する等、日頃より雇用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかなければならない。			
エ 本工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）がアからウまでと同様の義務を負う旨を定めなければならない。			
(2)暴力団員等による不当介入の排除対策			
受注者は、当該工事の施工に当たって「沖縄県土木建築部発注工事における暴力団員等による不当介入の排除手続きに関する合意書（平成19年7月24日）」に基づき、次に関する事項を遵守しなければならない。なお、違反したことが判明した場合は、指名停止等の措置を行うなど、厳正に対処するものとする。			
ア 暴力団員等から不当要求を受けた場合は、毅然として拒否し、その旨を速やかに監督員に報告するとともに、所轄の警察署等に被害の届出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。			
イ 暴力団員等から不当要求による被害又は工事妨害を受けた場合は、速やかに監督員に報告するとともに所轄の警察署等に被害の届出を行うこと。			
ウ 暴力団員等に対する排除対策を講じたにもかかわらず、工事に遅れが生じるおそれがある場合は、速やかに監督員と工程に関する協議を行うこと。			
(3)ワンダーレスボンスの実施			
ア この工事はワンダーレスボンス実施対象工事である。			
「ワンダーレスボンス」とは、監督員が、受注者からの質問、協議の回答は、基本的に「その日のうち」に回答するよう対応することである。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」にすることである。			
イ 受注者は計画工程表の提出に当たって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督員と協議を行うこと。			
ウ 受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督員へ報告すること。			
エ 効果・課題等を把握するためアンケート調査等のフォローアップ調査を実施する場合があるため、協力すること。			
(4)工事監理業務への協力等			
ア 本工事の工事監理業務（建築工事監理業務委託契約に基づき、建築士法第2条第8項並びに同法第18条第3項に掲げる工事監理を行う業務をいう。以下同じ。）は、別途委託契約を締結することとしており、本工事の現場代理人等は、当該工事監理業務の履行に協力すること。			

- (4) 工事監理業務への協力等
- イ 工事監理業務の受注者が配置した管理技術者、主任担当技術者並びに担当技術者（以下「管理技術者等」という。）の氏名等は、発注者から通知する。なお、管理技術者等は本工事に関する指示・承諾・協議の権限は有しない。
- ウ 設計図書において監督員に提出することとなっている書類は、原則として管理技術者等に提出すること。
- エ 建設業法第22条の2の規程に基づく工事監理に対する報告の書類は、監督員に提出すること。
- (5) 本工事の請負代金額の変更協議をする場合及び本工事と関連する工事を本工事受注者と随意契約する場合の取扱いについて
- 本工事の請負代金額の変更協議をする場合又は本工事と関連する工事を本工事受注者と随意契約する場合にあたって、変更協議または関連する工事の予定価格の算定は、本工事の請負比率（元契約額÷元設計額）を変更設計額または関連工事の設計額に乗じた額で行う。
- (6) 県産資材の優先使用
- 本工事に使用する資材等のうち、沖縄県内で生産、製造され、かつ、規格、品質、価格等が適正である場合はこれを優先して使用するよう努めなければならない。なお、主要建設資材の使用状況を「県産建設資材使用状況報告書」にて報告すること。
- (7) 下請業者の県内企業優先活用
- 請負業者は、下請契約の相手方を県内企業（主たる営業所を沖縄県内に有する者。）から選定するように努めなければならない。
- (8) 不発弾等発見時の処理について
- 本工事において、不発弾等が発見された場合には、警察署（交番、駐在所）に報告すると共に、監督員を通して関連市町村（防災主管課）、沖縄県知事公室防災危機管理課及び沖縄県土木建築部技術・建設業課に報告すること。
- また、発見された不発弾等については、警察署または自衛隊より指示等があるまでは、触れずにそのままの状態で保存すること。
- なお、これについては、下請業者へも周知すること。
- (9) ダンプトラック等の過積載等の防止について
- ア 工用具資機材等の積載超過がないようにするとともに交通安全管理を十分に行うこと。
- イ 過積載を行っている資材納入者から資材購入をしないこと。
- ウ 資材等の過積載を防止するため、資材の購入等に当たっては、資材納入業者等の利益を不当に害することのないようにすること。
- エ さし枠の装置または物品積載装置の不正改造をしたダンプカーが工事現場に入入ることがないようにすること。
- オ 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止に関する特別措置法（以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等の加入者の使用を促進すること。
- カ 下請契約の相手方又は資材納入者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠けるもの又は業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故が発生させたものを排除すること。
- キ アからカの事につき、下請契約における受注者を指導すること。
- (10) 不正軽油の使用の禁止等について
- ア 受注者は、工事の施工に当たり、工事現場で使用し、若しくは使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）又は建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32の規定に違反する燃料をいう。）を使用し、又は使用させてはならない。
- イ 受注者は、県の税務当局が実施する使用燃料の抜取調査に協力しなければならない。
- (11) 設計図書における資材等の取扱いについて
- ア 本工事の設計図書及び参考図に示す資材等については、特定企業の製品又は工法を指定するものではない。
- イ 本工事で使用する資材等については、設計図書及び参考図のとりの品質規格・仕様等で積算しており、その品質規格・仕様等と同等品以上の資材を使用すること。なお、使用にあたっては監督職員の承諾を得るものとする。
- ウ 「参考図」は建設工事請負契約約款第1条に定める設計図書ではなく、発注者の積算の透明性を確保し入札者の積算、工事費内訳書作成の効率化を図ることを目的に「参考資料」として提示するものである。
- (12) ガイドライン等の遵守について
- 設計変更等については、契約書18条から24条に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「工事請負契約における設計変更ガイドライン（営繕工事編）」（沖縄県土木建築部）によるものとする。
- (13) 本工事の予定価格に占める法定福利費概算額について
- ア 受注者は、契約締結後15日以内に、監督員を経由して請負代金内訳書を提出し、請負代金内訳書には、工事現場に従事する現場労働者に係る社会保険料（健康保険、厚生年金保険及び雇用保険をいう。）の内の事業主が納付義務を負う保険料（以降「法定福利費」という。）を明示すること。
- また、明示する法定福利費の算出に当たっては、各専門工事業団体が作成した標準見積書に沿って作成された法定福利費を内訳明示した下請企業の見積りの活用等の方法により適正に見積もることが必要であり、「法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順」に準拠する等により適切に算出すること。
- イ 発注者は、受注者から提出された請負代金内訳書に明示された法定福利費と予定価格に占める法定福利費概算額について確認を行い、「一定以上の乖離がある場合」は、受注者に対して説明を求め、場合によっては、建設業法第19条の3に違反するおそれがないか確認します。
- 【法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順（国土交通省HP）】  
https://www.mlit.go.jp/common/001090440.pdf  
【法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順（簡易版）（国土交通省HP）】  
https://www.mlit.go.jp/common/001203247.pdf  
【各団体が作成した標準見積書（国土交通省HP）】  
ホーム>政策・仕事>土地・建設産業>建設産業・不動産業>各団体が作成した標準見積書  
https://www.mlit.go.jp/totikensangyo/const/totikensangyo\_const\_thk2\_000082.html

章	項 目	特 記 事 項
①一般共通事項	①適用基準等	○ 建築工事監理指針（令和4年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ○ 建築工事標準詳細図（令和4年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部 ・ 敷地調査共通仕様書（令和4年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部 ○ 建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿（令和4年版）（一社）公共建築協会 ○ 営繕工事写真撮影要領（令和5年版） ・ 磁気探査実施要領（令和2年1月）沖縄県土木建築部 ○ 沖縄県土木建築部における公共建設工事の分別解体・再資源化および再生資源活用に関する実施要領（平成25年12月）沖縄県土木建築部 ○ 構造計画・施工計画・建築設備計画の留意事項（令和4年4月）沖縄県土木建築部  登録する。ただし、工事請負代金額が500万円未満の工事については、登録を要しない。
	②工事実績情報の登録（1.1.4）	
	3 工事の一時中止に関する事項（1.1.9）	工事の一時中止に係る計画の作成 (1) 契約書第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画（以下「基本計画書」という。）を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労働者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。 (2) 工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。
	4 工事の余裕期間	・ 余裕期間を設定する工事 【 方式】 【以下から選択：発注者指定方式／任意着手方式／フレックス方式】 (1) 本工事は余裕期間として【 日間】を設定した工事である。 なお、余裕期間の設定にかかる積算上の割増は考慮しない。 (2) 余裕期間制度のうち、任意着手方式、フレックス方式において、受注者は、余裕期間内の任意の日を工事の始期と定めることができる。 このため、受注者は、落札結果通知を受けた日の翌日までに「工期通知書（様式－1）」を作成し、発注者（契約担当者）に通知（提出）すること。 (3) その他事項は、「余裕期間を設定する工事実施要領」による。
5 概成工期（1.2.1）		図示された範囲は【令和 年 月 日】までに完了すること。
	⑥品質計画等（1.2.2）	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 (1) 風速：V0＝ 46 m/s （平12建告第1454号第2） (2) 地表面粗度区分：（ ・Ⅰ ・Ⅱ ・Ⅲ ・Ⅳ ） (8.4.3）(8.5.3）(9.4.4）(10.5.3）(13.2.3） (13.3.3）(13.4.3）(14.7.3）(16.14.5）(23.5.4）
⑦施工図等（1.2.3）		(1) 施工図等の著作権に関わる当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。 (2) 現場代理人等は、施工に先立ち、各工事間の施工計画を調整、検討するため、各室の平面図、展開図、天井伏図（各1/50程度）及び必要な部位の断面図を作成の上、各工事の必要な内容を記載した総合図を作成する。なお、総合図は監督員に提出し、確認を受ける。 (3) 施工計画書及び施工図等は監督員の指示する時期に提出する。ただし監督員の指示がない場合は、原則として施工計画書は契約後30日以内、施工図等は工事着手前までに提出し、承諾を受ける。
	⑧工事の記録（1.2.4）	沖縄県土木建築部工事関係標準様式を用いる。
⑨電気保安技術者（1.3.3）		電気工作物の工事を行う場合、その工事期間において電気保安技術者を配置し、保安業務を行うこと。
	⑩施工条件（1.3.5）	施工順序等の制約 ・ 無し ・ 有り【 ・ 現場説明書による ・ 図示 ・ 図 工事車両の駐車場所 ： ・ 図示 ・ 現場説明書による 資材、機材置場 ： ・ 図示 ・ 現場説明書による 建設発生土の仮置場 ： ・ 図示 ・ 現場説明書による その他の施工条件 ： ・ 図示 ・ 現場説明書による

⑪

①

施工中の安全確保及び環境保全等（1.3.7）  
（1.3.10）

12

交通安全管理  
（1.3.8）

⑬

③

発生材の処理等（1.3.11）

①

「低騒音型、低振動型建設機械の指定に関する規程」（平成9年7月31日建設省告示第1536号 最終改正平成13年4月9日 国土交通省告示第487号）による建設機械を使用する。

②

本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は原則として「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付け建設省経機発第249号最終改正平成22年3月18日付け国総施設第291号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。

一般工用建設機械（ディーゼルエンジン出力7.5～260kW）

ア バックホウ

イ 車輪式トラクタショベル

ウ ブルドーザ

エ 発動発電機

オ 空気圧縮機

カ 油圧ユニット（基礎工用機械で独立したもの）

キ ローラ類

ク ホイールクレーン

③

発生材の処理等（1.3.11）

①

「国道6路線及び県道7路線における警備業者が交通誘導警備業務を行う場合は、一般又は二級検定合格警備員を配置すること。（令和3年2月19日 沖縄県公安委員会告示第38号）」

②

「マニフェストシステムを採用し、適正な収集、運搬及び処分を行う。」

	発生材の種類
発注者に引き渡すもの	
特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法	
現場において再利用を図るもの	

②

本工事により発生する建設廃棄物のうち、県内の最終処分場に搬入する産業廃棄物は、産業廃棄物の処理に係る税（沖縄県産業廃棄物税）が課税されるので、適正に処理すること。

③

受注者は、工事着手前に「建設副産物情報交換システム」（COBRIS）により作成した、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を監督員に提出しなければならない。

また、受注者は、その計画書に従い建設廃棄物が適切に処理されたことを確認し、工事完成時に「建設副産物情報交換システム」（COBRIS）により作成した、「再資源化報告書」、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」を監督員に提出しなければならない。

④

受注者は、工事で発生した建設廃棄物について、ゆいくる材の認定を受けた施設又はゆいくる材の認定を受けていないが、再資源化後にゆいくる材製造業者へ出荷している施設へ搬出すること。ただし、島内に当該施設がない場合はこの限りではない。

⑤

本工事における再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、前に掲げる施設のうち、受入条件のうちから運搬費と処分費（平日受入費用）の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き、再資源化に要する費用の変更は行わない。

⑥

アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水及び粉体の取扱基準について

ア

舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する濁水及び粉体（以下、廃棄物という。）については、廃棄物吸引機能有する切断機械等により回収するものとする。回収された廃棄物については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

「適正に処理」するとは、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者（請負業者）が産業廃棄物の処理を委託する際、適正処理のために必要な廃棄物情報（成分性状等）を処理業者に提供することが必要である。なお、工事に際して特別な混入物が無ければ、下記HPに掲載されている「濁水及び粉体の分析結果」を用いても差し支えない。

<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/seibi/sangyo/asufaruto.html>

なお、受注者は、廃棄物の処理に係る産業廃棄物管理票（マニフェスト）について、監督員から請求があった場合は提示しなければならない。

イ

発生する濁水（汚濁）に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水の取扱基準について（通知）（平成24年3月28日付け土技第1257号）」に基づき、適正に処理すること。

ウ

発生する粉体に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する廃棄物の取扱いについて（通知）（平成25年1月17日付け土技第942号）」に基づき、適正に処理すること。

位 置		国頭郡東村字川田内地	
工 事 名		川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）凝集沈殿池	
測量年月		図面説明 NO SCALE	建築工事特記仕様書（1/4）
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号		25 葉 中 1 葉	



7鉄骨工事

1鋼材(7.2.1)(表7.2.1)

2高力ボルト(7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)(7.4.7)

3普通ボルト(7.2.3)(7.3.2)

4アンカーボルト(7.2.4)(7.3.2)(7.10.3)(表7.10.1)

5デッキプレート(7.2.7)(7.7.8)

6スタッド(7.2.8)

7柱底均しモルタル(7.2.9)

8材料試験等(7.2.10)

9仮組(7.3.10)

10溶接(7.6.3)(7.6.4)(7.6.7)(7.6.12)

11塗料の種類(7.8.4)(表18.3.1)

12耐火被覆の種類及び性能(7.9.2)(7.9.3)

13その他(7.11.2)(7.12.5)

記号の種類	適用箇所	備考
		形状及び寸法は、図示による。

種類	径	緑端距離	間隔	ゲージ	備考

すべり係数試験：【 ・ 実施する ・ 実施しない 】  
試験の方法、試験片の摩擦面の処理：【 ・ 図示 】

径	緑端距離	間隔	ゲージ	備考

・ 構造用アンカーボルト

種類	緑端距離	間隔	ゲージ	形状及び寸法	保持及び埋込み工法

・ 建方用アンカーボルト

種類	緑端距離	間隔	ゲージ	形状及び寸法	保持及び埋込み工法

施工部位	材質	形状	寸法	備考

デッキプレートと鉄骨部材の溶接方法：【 ・ 図示 ・ 】

施工部位	材質	形状	寸法	備考

材料	厚さ	種別	備考

引張りを受ける材料の試験等： ・ 実施する【図示( )】

仮組の実施：【 ・ 実施する ・ 実施しない 】

開先の形状	エンド部の有・無及び適用箇所	スカルップの形状	溶接部の試験

錆止め塗料の種類：【 ・ A種 ・ B種 】

種類	所要性能及び適用箇所

(1) 軽量鋼構造におけるボルトの接合方法：  
(2) 溶融亜鉛めっき高力ボルトを使用する場合の摩擦面の処理：  
【 ・ プラスト処理  
・ プラスト以外の特別な処理方法及びすべり耐力等の確認方法： 】

8コンクリートブロック・ALCパネル・ECP工事

1補強コンクリートブロック造(8.2.2)(8.2.4)(8.2.5)

2コンクリートブロック帳壁及び塀(8.3.2)～(8.3.4)

3ALCパネル(8.4.2)～(8.4.5)(表8.4.2)(表8.4.3)

4押出成形セメント板(ECP)(8.5.2)～(8.5.4)(表8.5.1)(表8.5.2)

ブロックの種類及びモジュール呼び寸法	正味厚さ	各部の配筋

ブロックの種類及びモジュール呼び寸法	正味厚さ	各部の配筋

塀の場合の化粧ブロックの有無：【 ・ 有り ・ 無し 】

(1) パネルの種類等

パネルの種類	単位荷重	厚さ	長さ	構法

(2) 床パネルの耐火性能：【 ・ 1時間 ・ 2時間】  
(3) 外壁パネル構法の場合の伸縮調整目地の目地幅：  
【 ・ 図示 ・ ( ) mm】  
(4) 耐火目地材の適用：【 ・ 適用する ・ 適用しない】

パネルの種類	表面形状	厚さ	幅	取付工法

9防水工事

①防水の種類

②シーリング

③保証

④その他

(1) 防水の種類等 (9.2.2) (9.3.2) (9.4.2) (9.5.2) (9.6.1)

防水の種類	厚さ	施工箇所

(2) 防水層の種類 (9.2.3) (9.3.3) (9.4.3) (9.5.3) (9.6.3)

防水層の種別	工法	備考

(表9.2.3) - (表9.2.9) (表9.3.1) - (表9.3.3)  
(表9.4.1) - (表9.4.3) (表9.5.1) (表9.5.2) (表9.6.2)

(3) その他の材料等  
・ 押え金物：(材質) (寸法)  
・ 絶縁用シート：(材料)  
・ 断熱材：(材質) (厚さ)  
・ 立上り部保護：(材料) (工法等)  
・ 脱気装置：(種類) (設置数)  
・ 仕上げ塗料：(種類) (使用量)

(4) 施工  
・ 下地の処理方法等：( )

(5) その他  
○ 無機質浸透性塗布防水  
○ 殊応型無機質防水・遮熱断熱防水

シーリング材の種類	施工箇所	試験等
MS-2変成シリコン	アルミ建具周囲	※簡易接着性試験
		※簡易接着性試験

(1) 元請業者、施工業者、製造所の三者連署による保証書を監督員に提出する。  
(2) 保証期間は、工事完成後【 5 】年間とする。ただし、アスファルト防水は【 】年間とする。  
○水膨張系止水材  
スパンシール(W-1015 厚10×幅150mm 鉄板芯材(厚0.4mm)入) (同等品)

10石工事

1石材(10.2.1)(表10.2.2)

2壁の石張り工法(10.3.2)(10.4.2)(10.5.2)

3床及び階段の石張り(10.6.2)(10.6.3)

4特殊部位の石張り(10.7.1)(10.7.2)(10.7.3)

(1) 天然石

施工箇所	種類	表面仕上げの種類

(2) テラゾ

施工箇所	種石の種類、大きさ	形状及び寸法	表面仕上げの種類

(1) 工法、加工等

工法	厚さ	石裏面処理	裏打ち処理	備考

(2) 乾式工法の方式：【 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式】  
(3) あと施工アンカーの材質及び寸法：  
(4) 外壁湿式工法に使用するドレンパイプの材質：

厚さ	石裏面処理	目地幅	備考

施工箇所	工法	石材の厚さ	石裏面処理	裏打ち処理	備考

⑪タイル工事

①タイル(11.2.2)(11.3.2)

2あと張り工法(11.2.6)(11.3.7)(表11.2.3)(表11.3.2)

1木材(12.2.1)(表12.2.1)

(表12.2.2)

1木材(下地材)の含水率：※A種 ・ B種  
木材(造作材)の含水率：※A種 ・ B種

(2) 製材  
【 ・ 「製材の日本農林規格」による  
・ 「製材の日本農林規格」以外による】  
【 ・ 下地用針葉樹製材 ・ 造作用針葉樹製材  
・ 広葉樹製材 ・ 】

施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	防虫処理

(3) 造作用集成材  
【 ・ 「集成材の日本農林規格」による  
・ 「集成材の日本農林規格」以外による】  
【 ・ 造作用集成材 ・ 化粧ばり造作用集成材  
・ 化粧ばり構造用集成材 ・ 】

施工箇所	樹種	寸法	等級又は品質	含水率	化粧薄板の厚さ

(4) 造作用単板積層材  
【 ・ 「単板積層材の日本農林規格」による  
・ 「単板積層材の日本農林規格」以外による】

施工箇所	厚さ	表面の品質	含水率	防虫処理

(5) 合板等【 ・ 普通合板 ・ 構造用合板】

施工箇所	樹種	厚さ	品質、等級等	接着の程度	防虫・強度等

(6) パーティクルボード

施工箇所	厚さ	裏表面の状態	曲げ強さ	接着剤	難燃性

(7) 構造用パネル

施工箇所	厚さ	等級

2 土壌の防蟻処理

(1) 施工箇所：「防除施工標準仕様書」(公益社団法人日本しろあり対策協会発行) I 新築建築物しろあり予防処理標準仕様書 4 処理の箇所 に準ずることとし、建築物の外周処理を含む。  
(2) 処理薬剤：(公社)日本しろあり対策協会又は(公社)日本木材保存協会の認定品とする。  
(3) 処理方法：「防除施工標準仕様書」 I 新築建築物しろあり予防処理標準仕様書 3 処理の方法 に準ずる。また、土間コンクリートを打設する部分には、薬剤処理後、厚さ0.15mmポリエチレンフィルム敷きを行う。

木材処理(防蟻・防虫)

(1) 施工箇所：合板、集成材等を除く全ての木材  
(2) 処理方法：工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて木材保存剤を塗布する。  
(3) 性能区分：性能区分は次による。ただし、監督員の指示を受けた部材については、その指示に従うものとする。  
ア 造作材にラワン材等広葉樹を使用する場合は、JASの保存処理K1＋保存処理K3とする。  
イ 構造材、下地材については、JASの保存処理K3とする。

(1) 公益社団法人日本しろあり対策協会の認定した「しろあり防除施工士」とする。ただし、工場における処理及び監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない。  
(2) 元請業者と施工業者の連署による保証書を監督員に提出する。なお、期間は、処理施工後5年とする。

13屋根及びびとい工事

1長尺金属板葺(13.2.2)

2折板(13.3.2)

3県産瓦葺

4瓦(13.4.3)

5とい(13.5.2)(表13.5.1)

⑭金属工事

1あと施工アンカー(14.1.3)

2アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理(14.2.2)(14.7.2)(14.8.2)(14.8.3)(表14.2.1)

3鉄鋼の亜鉛めっき(14.2.3)(表14.2.2)

4軽量鉄骨天井下地(14.4.3)(14.4.4)

5金属成形板張り(14.6.2)(14.6.3)

6アルミニウム製笠木(14.7.2)(14.7.3)(表14.7.1)

⑦アルミニウム製手摺

⑮左官工事

1ラス系下地(15.2.4)

2せつこうボードその他のボード下地(15.2.5)

3モルタル塗り(15.3.2)(15.3.5)

1長尺金属板葺(13.2.2)

2折板(13.3.2)

3県産瓦葺

4瓦(13.4.3)

5とい(13.5.2)(表13.5.1)

あと施工アンカーの引抜試験：【 ・ 実施する・ 実施しない】

表面処理の種別をB-1種又はB-2種としたときの複合皮膜の種類：【 ・ A1 ・ A2】(JIS H 8602)  
(14.2.2) (14.7.2) (14.8.2) (14.8.3) (表14.2.1)

施工箇所	種別	表面処理方法

(14.2.3) (表14.2.2)

屋外の軽量鉄骨天井下地

野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔	野縁の間隔	備考

・ 補強方法等( 図示による )

(1) 金属成形板の種別及び表面処理：  
(2) 長尺の場合における伸縮調整継手：

(1) 構成部材による種類：  
(2) アルミニウム製笠木本体の材料の表面処理の種別及び複合皮膜の種類は次による。  
種別：【 ・ A-1 ・ B-1】  
種別をB-1とした場合の複合皮膜の種類：  
【 ・ A1 ・ A2】(JIS H 8602)  
(3) 固定金具の間隔及び固定方法：  
構成部材による種類：  
○ 図示による  
(下水道事業団仕様)

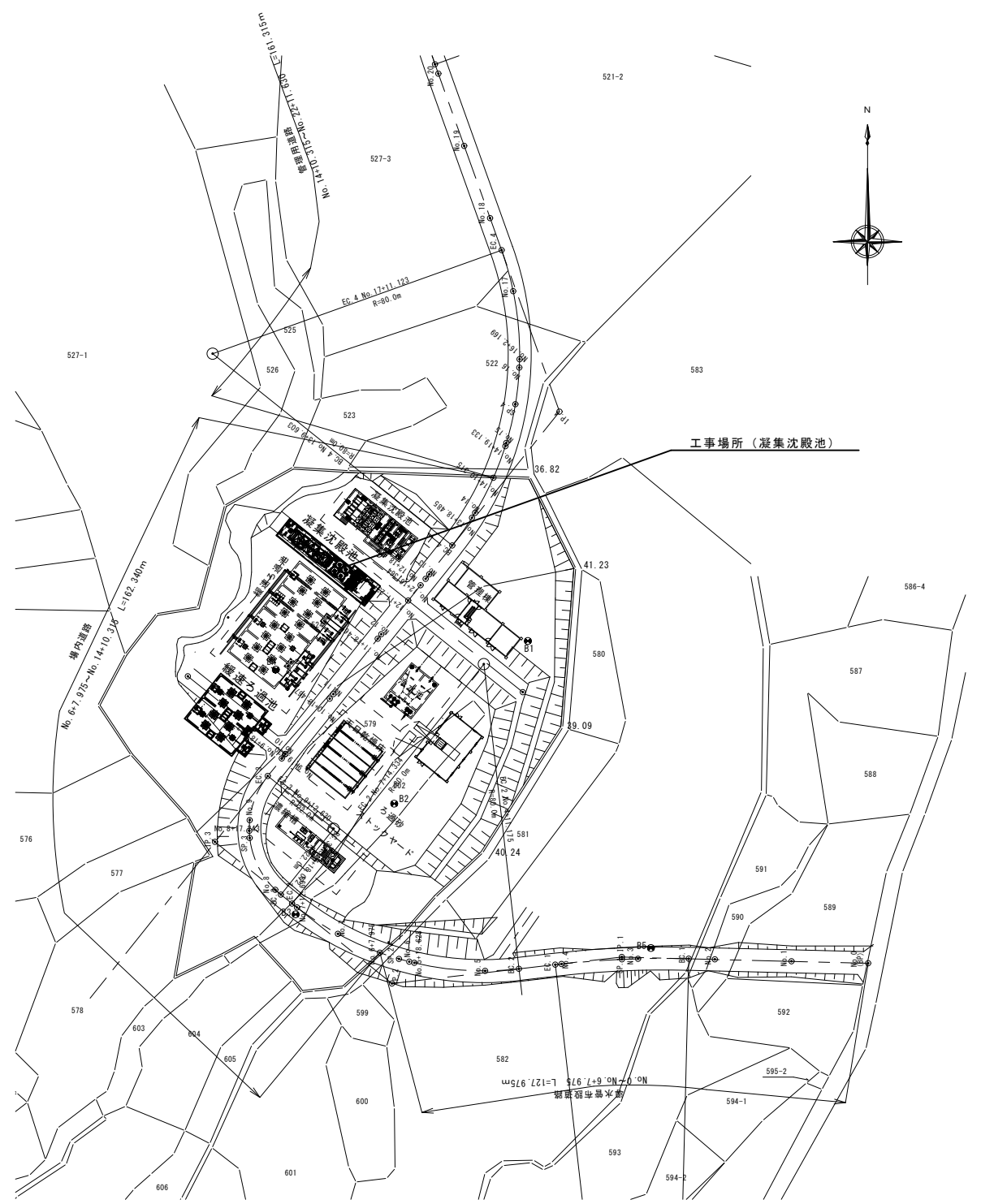
位 置	国頭郡東村字川田地内
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈殿池
測量年月	図 面 説 明
測 量	建築工事特記仕様書(3/4)
設 計	NO SCALE
審 査	
	課 長 課 長 補 佐 係
図面番号	25 葉 中 3 葉

⑮ 左官工事 へ続き	④ 仕上塗材仕上げ (15.6.2) (表15.6.1)	<table> <tr> <th>種類</th><th>呼び名</th><th>仕上の形状・工法等</th></tr> <tr> <td>図示による</td><td></td><td></td></tr> </table>	種類	呼び名	仕上の形状・工法等	図示による			⑩ 鍵 (16.8.4)	(1) マスターキー：【○ 製作する ・ 製作しない】 (2) 関連工事がある場合は、受注者間で協議し1つの鍵箱にまとめて納品する。	5 フローリングボードの特殊張り	体育館、武道場等の床の強度、弾力性を特に要求される広い床は、日本体育床下地工業会編「体育館床工事標準施工要領書」による。	2 側境、排水枘等 (21.2.1)	(3) グレーチング <table> <tr> <th>材質</th><th>用途</th><th>適用荷重</th><th>メインバーピッチ</th><th>備考</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	材質	用途	適用荷重	メインバーピッチ	備考						(4) 地業の材料：【 】 基礎の厚さ及び種類は図示による。	23 舗装工事	1 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5) (表22.2.1) 2 路盤 (22.3.2) (22.3.5) 3 アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.4) (22.4.5) 4 コンクリート舗装 (22.5.2) 5 カラー舗装 (22.6.2) 6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2) 7 ブロック系舗装 (22.8.1)	(1) 路床の種類等 <table> <tr> <th>層の種類</th><th>厚さ</th><th>盛土の材料</th><th>路床安定処理</th><th>試験</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (2) ジオテキスタイルの適用及び品質：	層の種類	厚さ	盛土の材料	路床安定処理	試験						(1) 路盤の厚さ：【 】 (2) 締固め試験：【 】 (3) 構成及び厚さ：【 ・ 図示による (A- ) ・ 】 (4) 加熱アスファルト混合物等の種類：【 ・ 密粒度アスファルト混合物(13) ・ 再粒度アスファルト混合物(13) 】 (5) シールコートの適用：【 ・ 有り ・ 無し 】 (6) 構成及び厚さ：【 ・ 図示による (A- ) ・ 】 (7) 構成及び厚さ：【 ・ 図示による (A- ) ・ 】	23 植栽及び屋上緑化工事工事	1 植栽地の確認 (23.1.3) (23.2.2) (23.2.3) 2 植樹 (23.3.2) - (23.3.4) (23.3.6) 3 芝張り等 (23.4.2) 4 屋上緑化 (23.5.2) (23.5.3) (23.5.4)	(1) 植栽地の土壌試験： (2) 暗きよ、開きよ及び排水層等の設置は、図示による。 (3) 土壌改良剤： (4) 植込み用土： (5) 種類等 <table> <tr> <th>樹木の種類</th><th>樹高(m)</th><th>有効土層の厚さ(cm)</th><th>支柱の形</th><th>備考</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (6) 新植樹木の枯損償の期間：【※1年 ・ ( ) 年】 (7) 移植樹木の枯損処理を行う期間：【※1年 ・ ( ) 年】 (8) 芝の種類： (9) 種子の種類及び量： (10) 地被類 <table> <tr> <th>樹種</th><th>芽立数</th><th>コンテナ径</th><th>単位面積当たりのコンテナ数</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (11) 土壌層の厚さ (12) 排水層の厚さ (13) 樹木の樹種、寸法、数量 (14) 支柱の形式 (15) かん水装置	樹木の種類	樹高(m)	有効土層の厚さ(cm)	支柱の形	備考						樹種	芽立数	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数					(1) 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等は、図示による。 ※樹木の固定方法については、施工計画書に明記し、監督職員と協議すること。	24 その他	1 重量がある厚等 ・ 図示による【 ・ (A- ) ・ 】 ・ 施工図及び施工計画書(工場製作要領書・工事現場施工要領書を含む)の記載事項は、標準仕様書16章建具工事に加え、標準仕様書7章鉄骨工事に準拠することし、扉の取り付け方法、溶接、塗装計画、ボルト等接合作業手順等を考慮しながら品質計画を作成する。施工図及び施工計画書を工事の施工に先立ち作成し、監督員に提出し承諾を得るものとする。																																																																																									
種類	呼び名	仕上の形状・工法等																																																																																																																																																						
図示による																																																																																																																																																								
材質	用途	適用荷重	メインバーピッチ	備考																																																																																																																																																				
層の種類	厚さ	盛土の材料	路床安定処理	試験																																																																																																																																																				
樹木の種類	樹高(m)	有効土層の厚さ(cm)	支柱の形	備考																																																																																																																																																				
樹種	芽立数	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数																																																																																																																																																					
⑮ 左官工事 へ続き	1 防火戸等 (16.1.3) (16.1.6) 2 見本の製作等 (16.1.4) ③ アルミニウム製建具 (16.2.2) (16.2.4) (16.2.5) (表14.2.1) (表16.2.1) 4 樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.3) (16.3.4) (16.3.5) (表16.3.1) (表16.3.2) (表16.3.3) (表16.3.4) 5 鋼製建具 (16.4.1) (16.4.2) 6 鋼製軽量建具 (16.5.2) (16.5.3) (表16.2.1) 7 ステンレス製建具 (16.6.2) (16.6.3) 8 木製建具 (16.7.2) (16.7.4) ⑨ 建具用金物 (16.8.2) (16.8.3) (表16.8.1)	(1) 防火戸の指定及び機構等は、図示による。 (2) 防犯建物部品の適用は、図示による。 (3) 建具見本の製作：【 ・ 行う ・ 行わない】 (4) 特殊な建具の仮組：【 ・ 実施する ・ 実施しない】 (5) 建具の性能等 <table> <tr> <th>種類</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠見込み寸法</th><th>施工箇所</th></tr> <tr> <td>○C種</td><td>S-6 (2800)</td><td>A-4 (2)</td><td>W-5 (500)</td><td>○70・100</td><td>図示による</td></tr> </table> (6) 特殊なドアセット等の適用及び等級 <table> <tr> <th>ドアセット等の種類</th><th>施工箇所</th><th>等級</th><th>備考</th></tr> <tr> <td>・ 防音ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>・ 断熱ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>・ 耐震ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (7) 外部に面する建具の表面処理の種類及び複合皮膜の種類 種類：B-1 複合皮膜の種類：【 ・ A1 ・ A2】(JIS H 8602) (8) 結露水の処理方法： (9) 水切り及びびぜん板等の加工及び組立は、図示による。 (10) 建具の性能等 <table> <tr> <th>種類</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠見込み寸法</th><th>施工箇所</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (11) 特殊なドアセット等の適用及び等級 <table> <tr> <th>ドアセット等の種類</th><th>施工箇所</th><th>等級</th><th>備考</th></tr> <tr> <td>・ 防音ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>・ 断熱ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (12) 表面色： (13) 水切り及びびぜん板等の加工及び組立は、図示による。 (14) ガラス：※複層ガラス・単板ガラス・三重ガラス (15) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級【 ・ 】 (16) 建具の性能等 <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>耐風圧性</th><th>備考 (材料等)</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (17) 特殊なドアセット等の適用及び等級 <table> <tr> <th>ドアセット等の種類</th><th>施工箇所</th><th>等級</th><th>備考</th></tr> <tr> <td>・ 簡易気密型ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (18) 鋼板の種類：【 ・ JIS G 3302 ・ JIS G 3317】 (19) 重量がある厚等 ・ 24 その他 1重量がある厚等 による。 (20) 建具の性能等 <table> <tr> <th>種類</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠見込み寸法</th><th>施工箇所</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (21) 特殊なドアセット等の適用及び等級 <table> <tr> <th>ドアセット等の種類</th><th>施工箇所</th><th>等級</th><th>備考</th></tr> <tr> <td>・ 簡易気密型ドアセット</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (22) ビニル被覆鋼板：【 ・ 使用する ・ 使用しない】 (23) カラー鋼板の適用：【 ・ 使用する ・ 使用しない】 (24) 建具の性能等 <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>耐風圧性</th><th>備考 (材料等)</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (25) 表面仕上げ：【※H.L. ・ パイブレーション ・ 鏡面 ・ 】 (26) かまち戸 かまちの樹種： 、鏡板の樹種： (27) ふすま 上張りの種類： 、縁の仕上げ： (28) 建具用金物の材質、形状及び寸法 <table> <tr> <th>形式</th><th>金物の種類</th><th>見え掛け部の材質</th><th>備考</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>図示による</td></tr> </table> (29) 建具用金物の取付け位置等は、図示による。	種類	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所	○C種	S-6 (2800)	A-4 (2)	W-5 (500)	○70・100	図示による	ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・ 防音ドアセット				・ 断熱ドアセット				・ 耐震ドアセット				種類	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所							ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・ 防音ドアセット				・ 断熱ドアセット				施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考 (材料等)						ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・ 簡易気密型ドアセット				種類	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所							ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考	・ 簡易気密型ドアセット				施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考 (材料等)						形式	金物の種類	見え掛け部の材質	備考				図示による	(1) カーテンウォールの種類：【 ・ メタル ・ P.C】 (2) 性能 <table> <tr> <th>耐風圧性能</th><th>耐震性</th><th>水密性</th><th>気密性</th><th>耐火性</th><th>耐温度性</th><th>遮音性</th><th>断熱性</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (3) 材料の種類 <table> <tr> <th>金属材料</th><th>シーリング材</th><th>耐火目地材</th><th>断熱材</th><th>構造ガスケット</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> (4) 先付け材料：【 ・ 建具枠・コンドーム用がイドレル・ 】 仕様等については、図示による。 (5) メタルカーテンウォール製品の見え掛け部分の仕上げ： (6) P.Cカーテンウォールの仕上げ： (7) 構造ガスケットを用いるガラスの取付け：	耐風圧性能	耐震性	水密性	気密性	耐火性	耐温度性	遮音性	断熱性									金属材料	シーリング材	耐火目地材	断熱材	構造ガスケット						(1) 塗装の種類及び種類 (18.1.7) (18.2.2) - (18.13.2) ② 保証 (1) 元請業者、施工業者、製造所の三者連署による保証書を監督員に提出する。 (2) 保証期間は、工事完成後【 】年間とする。	(1) ビニル床シートの材料及び工法 <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>種類の記号</th><th>色柄</th><th>厚さ</th><th>熱溶接工法の適用</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>・ 有り ・ 無し</td></tr> </table> (2) ビニル床タイル、ゴム床タイル <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>種類 ( ・ 形状 )</th><th></th></tr></table>	施工箇所	種類の記号	色柄	厚さ	熱溶接工法の適用					・ 有り ・ 無し	施工箇所	種類 ( ・ 形状 )	
種類	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所																																																																																																																																																			
○C種	S-6 (2800)	A-4 (2)	W-5 (500)	○70・100	図示による																																																																																																																																																			
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																																																																																																																																					
・ 防音ドアセット																																																																																																																																																								
・ 断熱ドアセット																																																																																																																																																								
・ 耐震ドアセット																																																																																																																																																								
種類	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所																																																																																																																																																			
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																																																																																																																																					
・ 防音ドアセット																																																																																																																																																								
・ 断熱ドアセット																																																																																																																																																								
施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考 (材料等)																																																																																																																																																				
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																																																																																																																																					
・ 簡易気密型ドアセット																																																																																																																																																								
種類	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み寸法	施工箇所																																																																																																																																																			
ドアセット等の種類	施工箇所	等級	備考																																																																																																																																																					
・ 簡易気密型ドアセット																																																																																																																																																								
施工箇所	気密性	水密性	耐風圧性	備考 (材料等)																																																																																																																																																				
形式	金物の種類	見え掛け部の材質	備考																																																																																																																																																					
			図示による																																																																																																																																																					
耐風圧性能	耐震性	水密性	気密性	耐火性	耐温度性	遮音性	断熱性																																																																																																																																																	
金属材料	シーリング材	耐火目地材	断熱材	構造ガスケット																																																																																																																																																				
施工箇所	種類の記号	色柄	厚さ	熱溶接工法の適用																																																																																																																																																				
				・ 有り ・ 無し																																																																																																																																																				
施工箇所	種類 ( ・ 形状 )																																																																																																																																																							





位置図  
S=1/5000

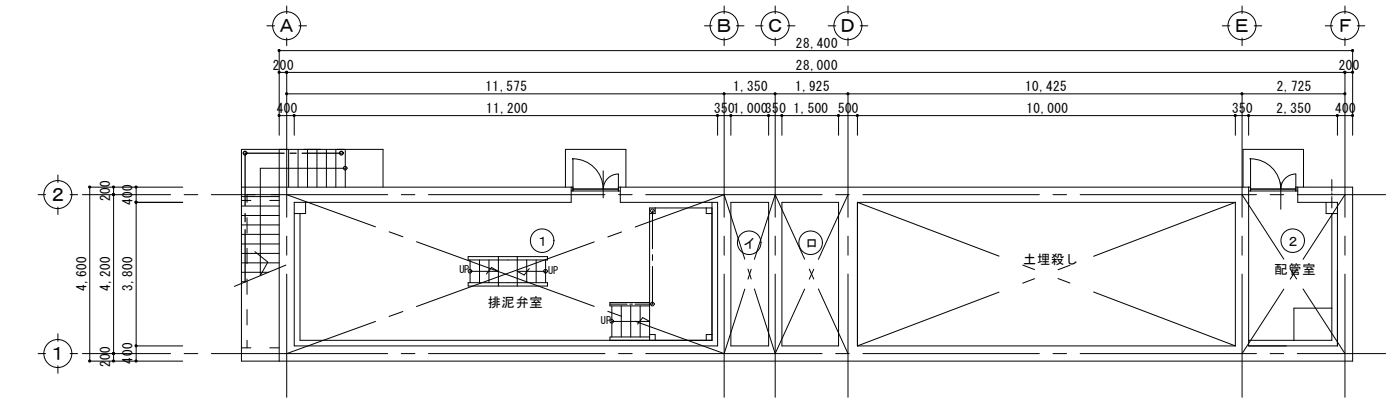


全体配置図  
S=1/800

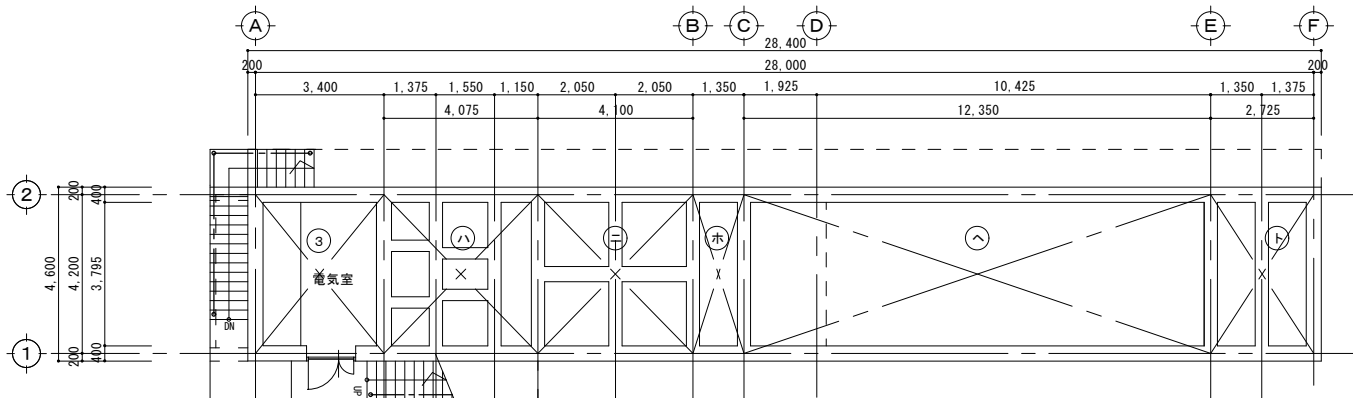
位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）凝集沈殿池		
測量年月		図面説明	位置図・全体配置図
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉 中 5 葉		

建 物 概 要				外 部 仕 上 表			註 記
工 事 名 称	川田浄水場第1期拡張工事（凝集沈殿池）	敷 地 面 積	m <sup>2</sup>	項 目	仕 上	そ の 他	可動式FRP製覆蓋[機械設備工事]
建 設 場 所	国頭郡東村字川田地内	延 床 面 積	191.42 m <sup>2</sup>	屋 根（陸屋根部）	コンクリート金コテ仕上の上、塗膜防水（特殊反応型無機質防水、遮熱断熱仕様）	* 外部打放し仕上について ○ 接土部 -- ㉔ ○ 地上部 -- ㉕ ○ 庇裏（天井）-- ㉖	1. 沈殿池上部開口 3,800×12,000（6分割@1,785+2,000）1ヶ所
建 物 規 模	壁式鉄筋コンクリート造 地下1階 地上1階	容 積 率	%	頂 版	コンクリート直均し仕上		
用 途 地 域		建 築 面 積	126.49 m <sup>2</sup>	軒 裏	コンクリート打放し仕上		
防 火 地 域	指定なし	建 べ い 率	%	外 壁（地上）	コンクリート補修の上、防水形複層塗材（複層弾性）		
そ の 他 の 地 域		最 高 軒 高	8.15m	外 壁（接土部）	コンクリート補修の上 無機質浸透性塗布防水（セラガードDS同等品）		
		最 高 高 さ	8.15m				
				建 具	アルミ製ドア		
				外 階 段	ノンスリップ：磁器質150×60 けあげ、踏み面：モルタル金コテ㉗30塗り仕上		
				外 部 手 摺	アルミ製手摺：H＝1, 100		

内 部 仕 上 表											
階	室 名	下地	床		巾 木		腰 壁		壁		備 考
			仕 上	コテ仕上	仕 上		仕 上		仕 上	打放仕上	
1 階	排 泥 弁 室	RC	無筋コンクリート t＝300 コンクリート金コテ仕上	薄物					コンクリート打放し左官補修仕上	㉕	周囲排水溝 W=150 排水ビット300×300
	配 管 室	RC	無筋コンクリート t＝300 コンクリート金コテ仕上	薄物					コンクリート打放し左官補修仕上	㉕	周囲排水溝 W=150 排水ビット300×300
	排泥ビット	RC	無筋コンクリート金コテ仕上の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	薄物					コンクリート補修の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	㉕	
2 階	電 気 室	RC	無筋コンクリート t＝400 コンクリート金コテ下地防塵塗装	薄物	コンクリート打放し左官補修下地 防塵塗装立上（H=100）				コンクリート打放し左官補修仕上	㉕	
	着水井・分配渠 集水トラフ 流入渠・流出渠	RC	無筋コンクリート金コテ仕上の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	薄物					コンクリート補修の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	㉕	床板用グレーチング h=25 タラップφ19－300×300（SUS304）
	第1、第2混和池 フロック形成池 薬品沈殿池	RC	無筋コンクリート金コテ仕上の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	薄物					コンクリート補修の上 エポキシ樹脂塗装（ショウゼットJWA工法同等品）	㉕	床板用グレーチング h=25 タラップφ19－300×300（SUS304） タラップφ19－300×250（SUS304）



地 階 平 面 図



1 階 平 面 図

（ 建築面積 ）

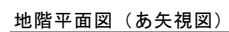
位 置	面 積 算 定 式	面 積
㉓	28.000×4.200	117.600 m <sup>2</sup>
㉙	29.400×0.200	5.880 m <sup>2</sup>
㉚	8.850×0.200	1.770 m <sup>2</sup>
㉛	6.200×0.200	1.240 m <sup>2</sup>
合 計		126.49 m <sup>2</sup>



（ 延床面積 ）

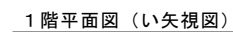
階	位 置	面 積 算 定 式	面 積
地 階	㉑	14.850×4.200	62.370 m <sup>2</sup>
	㉒	2.725×4.200	11.445 m <sup>2</sup>
	小計		73.815 m <sup>2</sup>
1 階	㉓	28.000×4.200	117.600 m <sup>2</sup>
合 計			191.415 m <sup>2</sup>
			191.42 m <sup>2</sup>

位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）凝集沈殿池		
測量年月		図 面 説 明 構 造 図（1/4） S=1/100（A1） S=1/200（A3）	
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 6 葉		

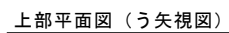
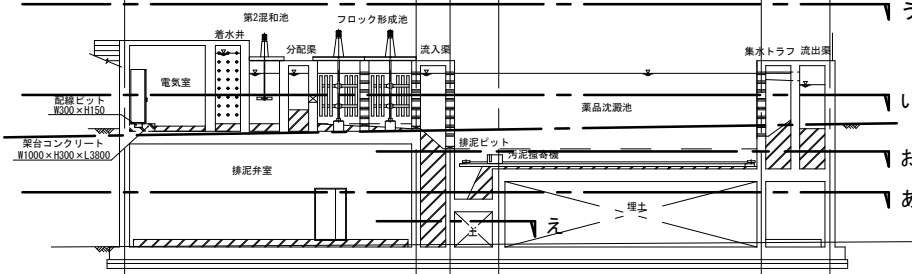




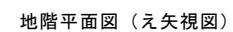
 は無筋コンクリートを示す  
 は埋土を示す





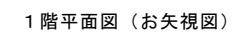
 は無筋コンクリートを示す



### 屋根伏図

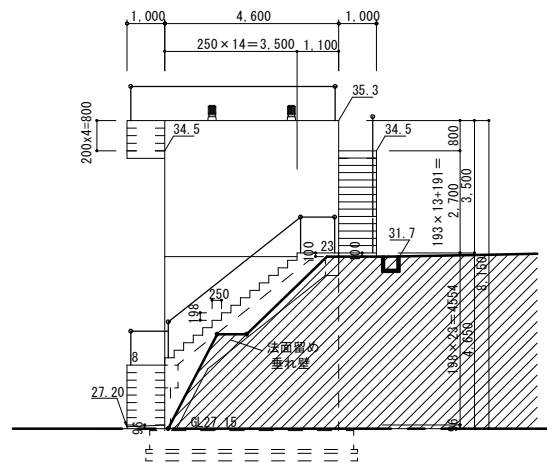


 は無筋コンクリートを示す  
 は埋土を示す

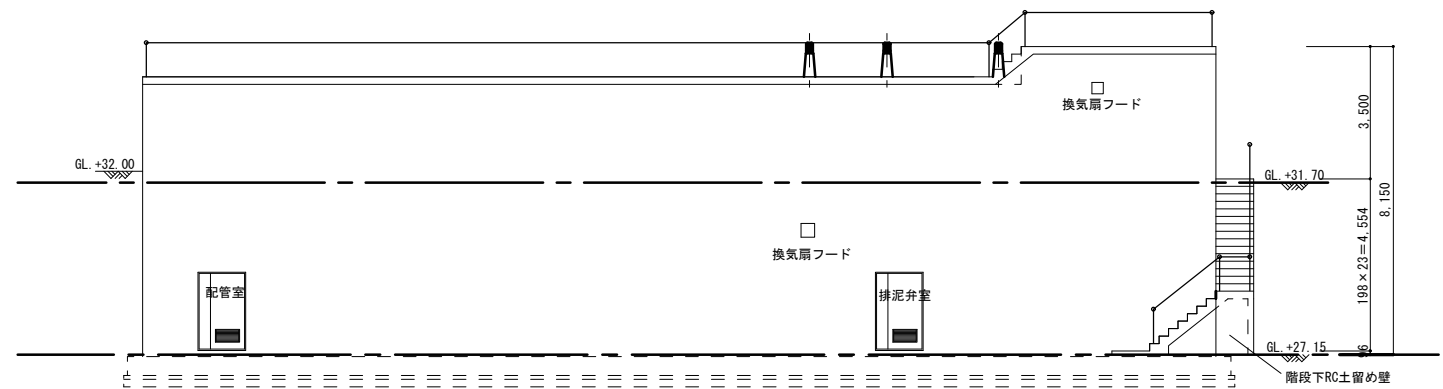


例  は無筋コンクリートを示す

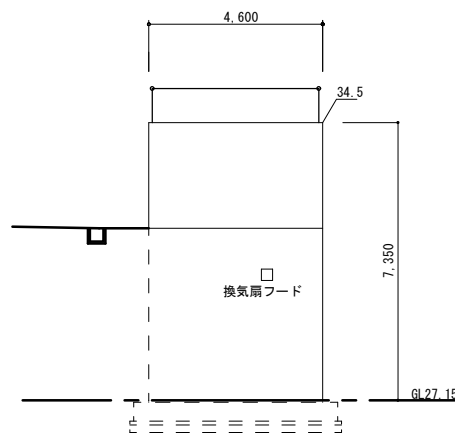
位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）凝集沈殿池		
測量年月		図 面 説 明	構 造 図（2/4） S=1/100 (A1) S=1/200 (A3)
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 7 葉		



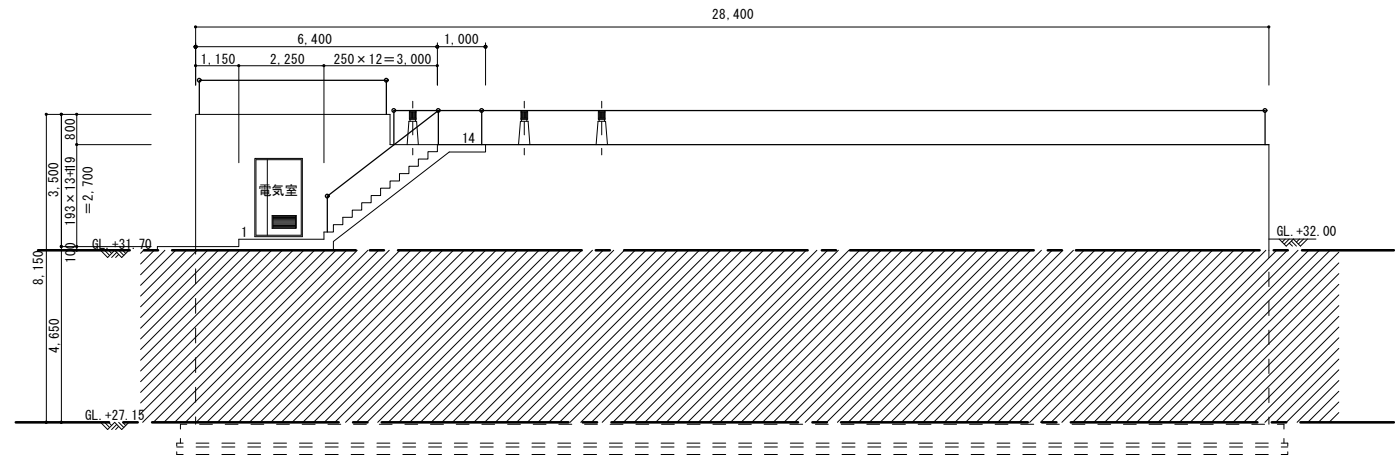
Ⓐ 立面図



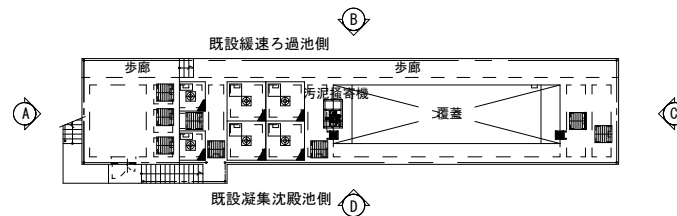
Ⓑ 立面図



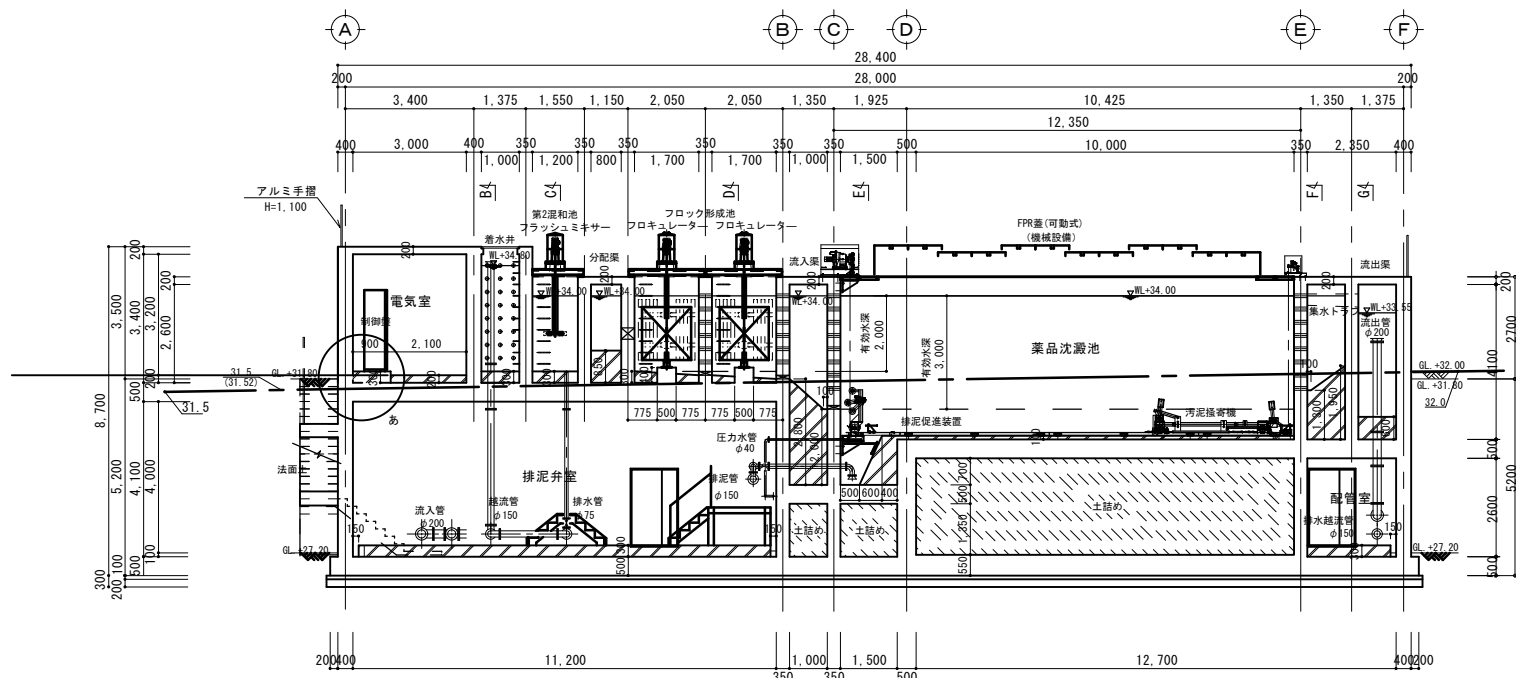
Ⓒ 立面図



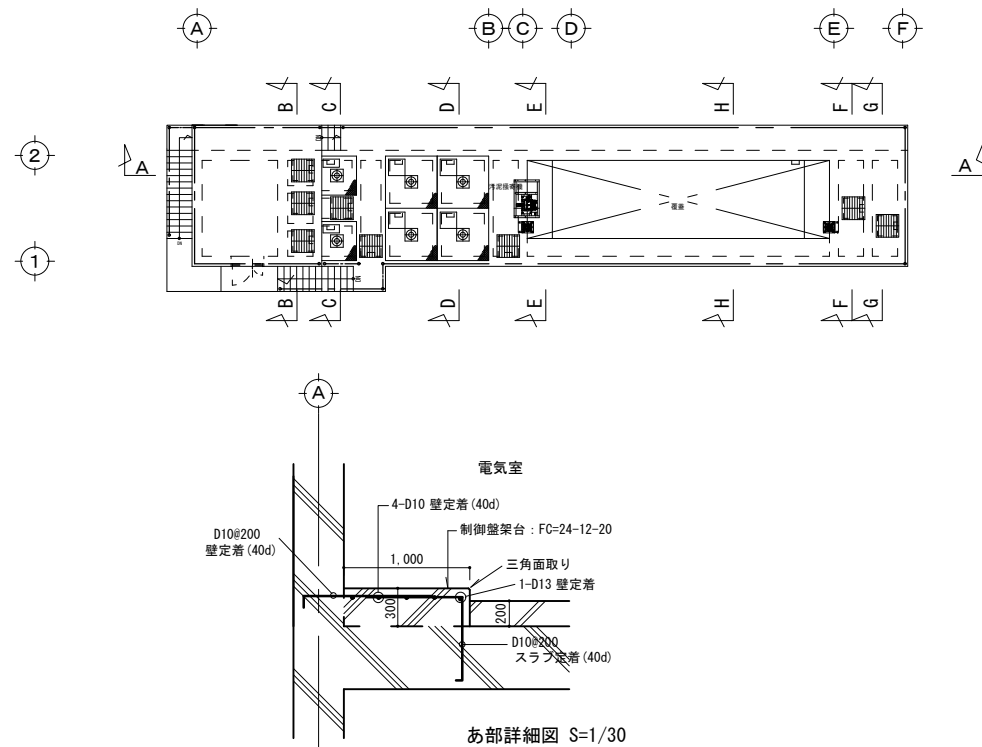
Ⓓ 立面図



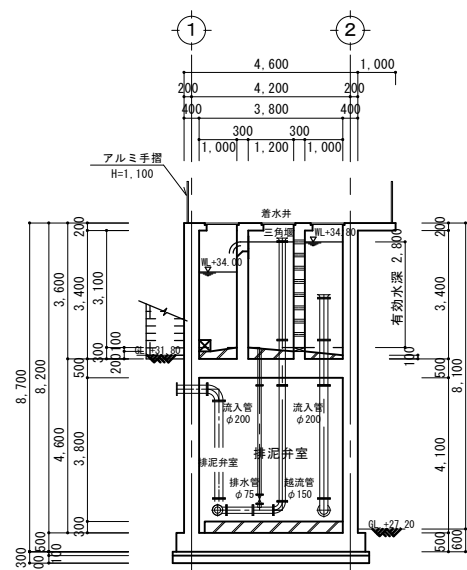
位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈殿池		
測量年月		図面説明 構造図(3/4) S=1/100(A1) S=1/200(A3)	
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 8 葉		



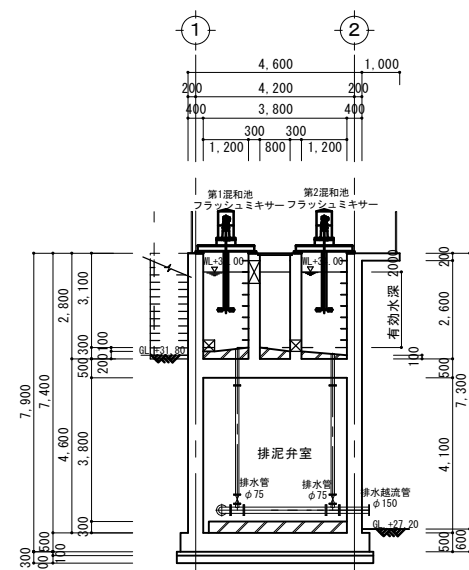
A - A 断面図



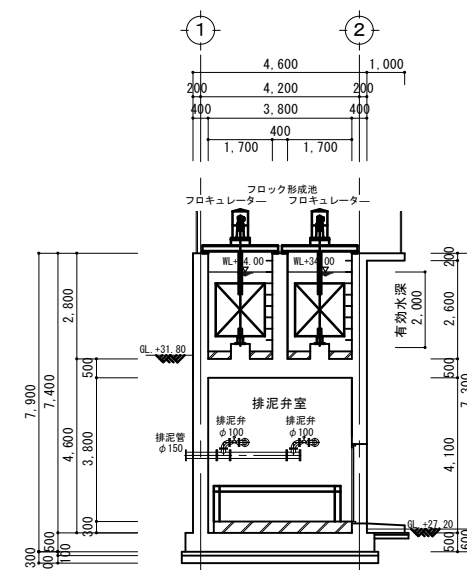
あ部詳細図 S=1/30



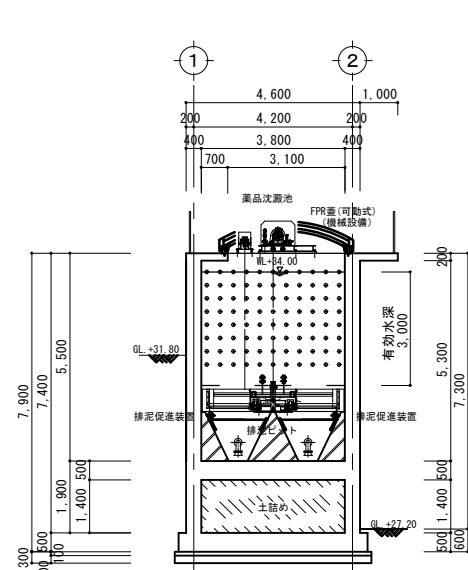
B - B 断面図



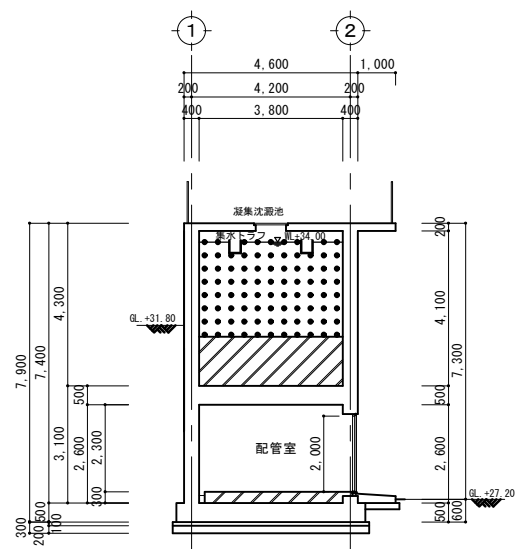
C - C 断面図



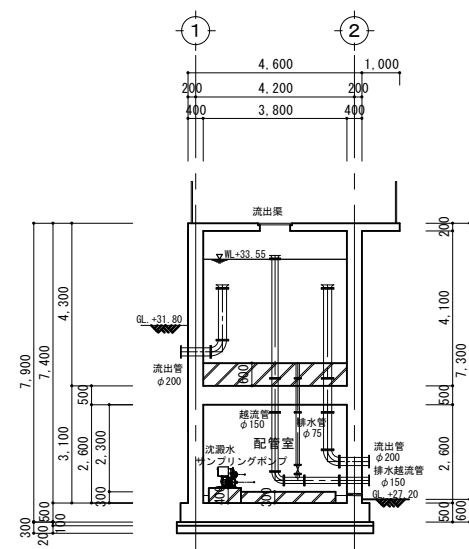
D - D 断面図



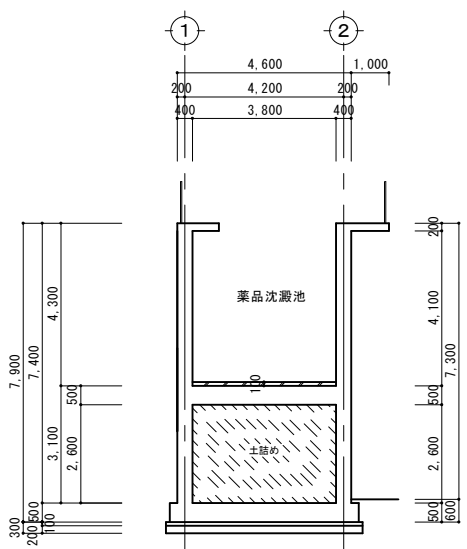
E - E 断面図



F - F 断面図



G - G 断面図



H - H 断面図

位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈澱池		
測量年月		図面説明	構造図(4/4)
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 9 葉		

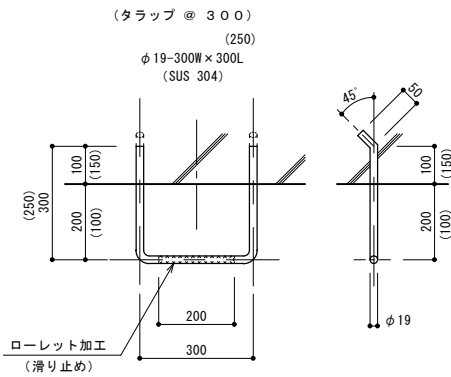
建 具 リ ス ト

S=1/50 (A1)  
S=1/100 (A3)

符 号 ・ 名 称 ・ 個 数	① AD	両開きアルミフラッシュ親子ドア	3
形 状 ・ 寸 法 (内観図)			
使用箇所	排泥弁室・配管室		
材質・見込	アルマイト処理 70		
ガ ラ ス	—		
金 物	ステンレス丁番・ドアクローザー（１個、ストップ付） フランス落し・握り玉付シンリンダー錠・戸当り・付属金物一式		
備 考	沓 摺：SUS304 (t=2.0mm) 換気ガラリ		

特記事項

1. 本表の建具の姿図は、原則として、内観図とする。
2. 本表に記載されている建具は、総て施工図を提出して、係員の承諾を得た後に制作施行する事。
3. 施工者は、製品を現場搬入する場合、前もって製品検査を受け、合格した物のみ現場搬入を行う事。
4. ドア枠廻りコーキングは、変成シリコン系シーリング (MS-2) とする事。
5. ドア取付のアンカー (D10 450@以内) は、溶接にて行う事。
6. ドア下枠のモルタル詰めはあらかじめ現場搬入の上取付前に行う事。
7. ガラスの留め材は、シリコン系シーリングを使用する事。
8. 錠は、美和又は、同等品以上とする事。（マスターキー）
9. 建具金物等の取付部分は、ビス止め用裏板補強を行う事。
10. ステンレス製品は、総てS U S 304を使用する事。
11. 性能は特記仕様書による。
12. アルミ製品は、JIS規格とし、加工組立工場もJIS認定工場とする。

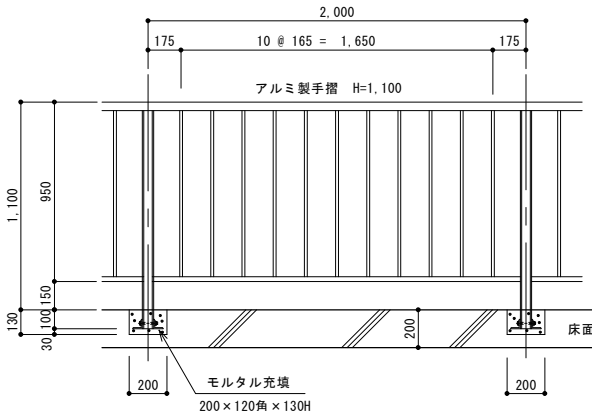


足掛金物詳細図 S=1/10 (A1)  
S=1/20 (A3)

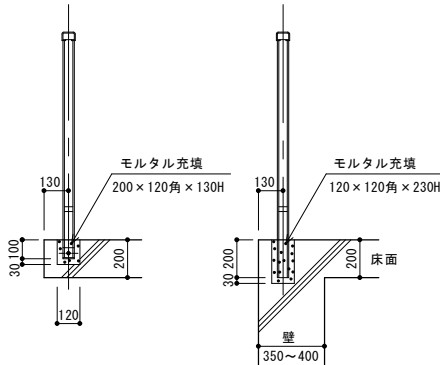
(注) ( ) 寸法はフロック形成池タラップを示す。

部 材 表

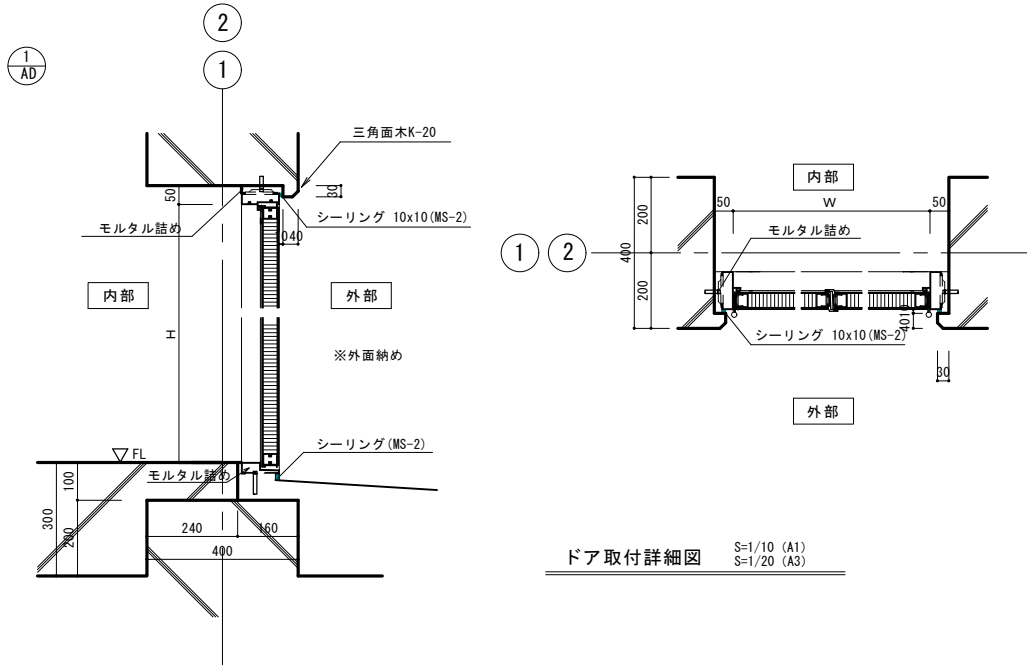
施 設 名	場 所	本数/カ所	カ所	数量(本)	備 考
凝集沈でん池	着 水 井	1 1	3	3 3	SUS304 φ19 300W×300L
	混 和 池	8	3	2 4	"
	分 配 渠	6	1	6	"
	流 入 渠	1 0	1	1 0	"
	凝集沈殿池	1 3	1	1 3	"
	集水トラフ	8	1	8	"
	流 出 渠	1 2	1	1 2	"
	合 計			1 0 6	"
	フロック形成池	8	4	3 2	SUS304 φ19 300W×250L
	合 計			3 2	"



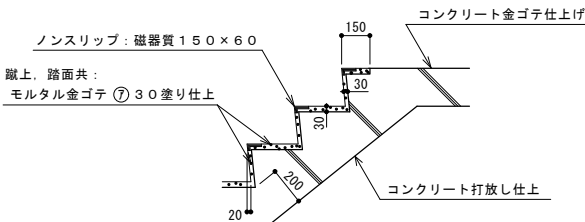
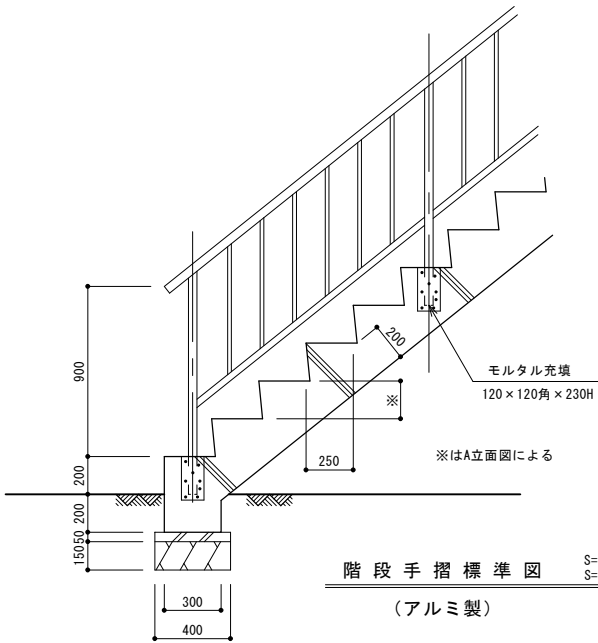
一般用手摺標準図 S=1/20 (A1)  
S=1/40 (A3)



外段部詳細 S=1/20 (A1)  
S=1/40 (A3)



ドア取付詳細図 S=1/10 (A1)  
S=1/20 (A3)



位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）凝集沈殿池		
測量年月		図 面 説 明 詳細図 (1/3) 図示による	
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 10 葉		

覆 蓋 (1)

槽の開口長さ 5.650

1.350 1.475 1.475 1.350

1.500

1.675 1.475 1.600

壁 (1) 縦断

壁 (2) 縦断

点検口 300角 (FRP)

取手

取手付き

覆蓋の外径長さ 5,950

150 1,350 1,475 1,475 1,350 150

エンドシール

ストッパー

レール

サイドシール

一時貯留槽

槽の開口長さ 650

350 350

8,400

[illegible]

Technical drawing of a drainage system for a pond. The drawing shows two parallel tracks with rails and support materials. Dimensions are given in millimeters. Key labels include: 覆蓋の外径長さ (Cover outer diameter length), サイドシール (Side seal), (機械歩器) (Mechanical walking device), エンドシール (End seal), ストッパー (Stopper), レール (Rail), レール受け鋼材 (Rail support steel material), 1号 2号傾斜板沈でん池 (No. 1 No. 2 Inclined plate settling pond), and 槽の開口長さ (Trough opening length).

[illegible]

Technical drawing of a sliding door assembly, showing side and cross-sectional views with dimensions and material specifications.

**Dimensions:**

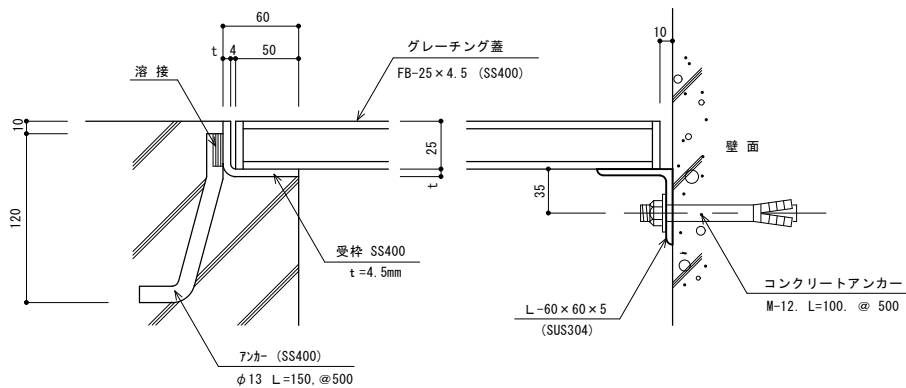
- Overall height:  $H1$
- Top panel height:  $h2$
- Bottom panel height:  $h1$
- Top panel thickness:  $30$
- Bottom panel thickness:  $30$
- Top panel width:  $95$
- Bottom panel width:  $95$
- Top panel depth:  $50$
- Bottom panel depth:  $50$
- Top panel offset:  $80$
- Bottom panel offset:  $20$
- Top panel offset:  $200$

**Materials and Components:**

- F R P 表面テックカー模様仕様 (FRP surface with teck pattern)
- 覆蓋受け材: (SUS 304) (Cover support material: SUS 304)
- 車輪: (SUS 304) (Wheels: SUS 304)
- レール調整モルタル 厚 20mm (Rail adjustment mortar, 20mm thick)
- レール: C-100  $\times$  50  $\times$  5 (SUS 304) (Rail: C-100  $\times$  50  $\times$  5 SUS 304)
- レール受け鋼材 (Rail support steel material)
- H 形鋼 (SS 400) (H-beam SS 400)
- コンクリートアンカー M12  $\phi$  750 (SUS 304) (Concrete anchor M12  $\phi$  750 SUS 304)

(註記) : 記入なき寸法は、メーカー仕様による。

(Aタイプ：四方受け枠付き)



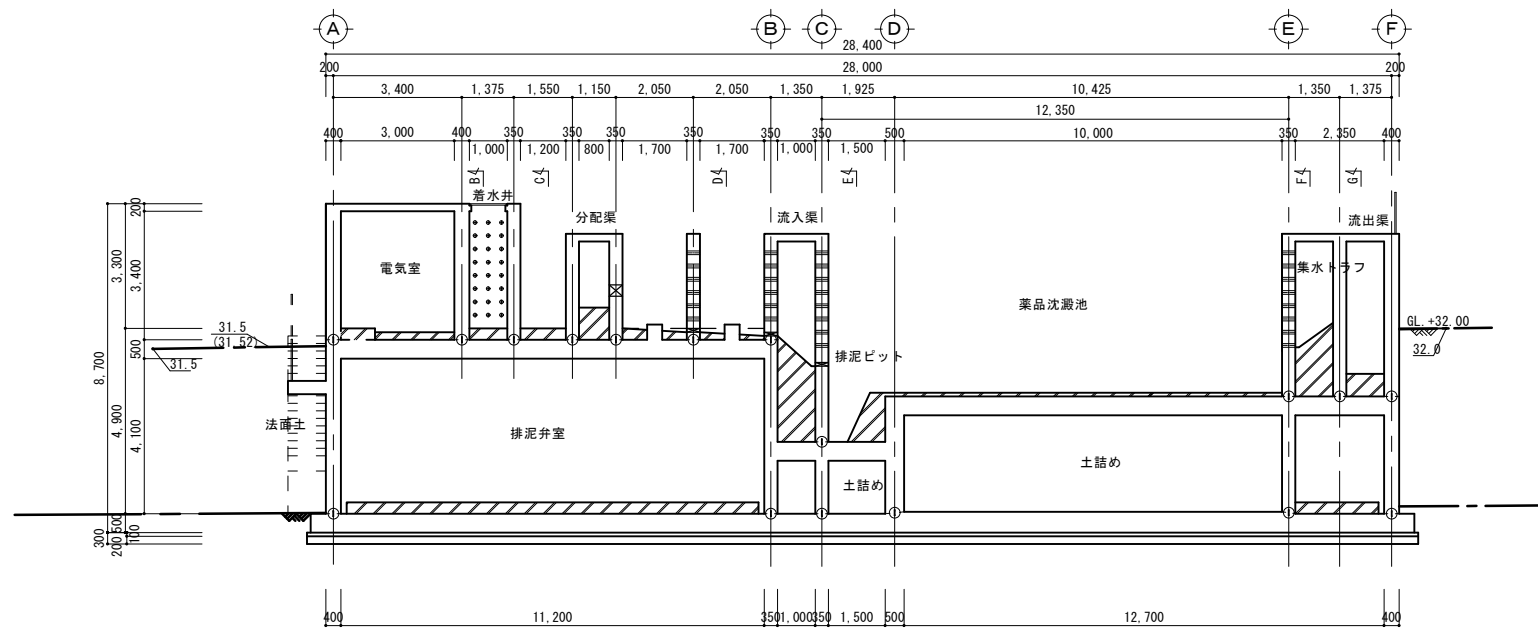
\*. 設計荷重：床用  $360 \text{ kg/m}^2$  ( $3.5 \text{ kN/m}^2$ ) 許容たわみ 床用  $L/300$

場 所	タイプ	開口寸法		受容寸法		グレナダ(1枚)寸法		箇所数	備 考
		W1	L1	W2	L2	a	b		
着水井	A	800	800	920	920	900	900	3	
混和池	A	800	800	920	920	900	900	1	
分配渠	A	800	800	920	920	900	900	1	
流入渠	A	800	800	920	920	900	900	1	
集水渠	A	800	800	920	920	900	900	1	
流出渠	A	800	800	920	920	900	900	1	

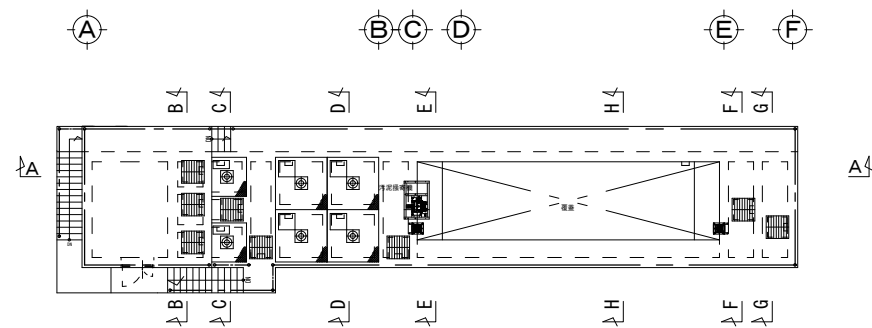
＜特記なきは下記による。＞

1. グレーチングは、SS400 電気圧接式溶接構造とし表面処理は  
JISH-8641.2種 溶融亜鉛メッキを行う。
2. 受枠は、SS400 としアンカー筋 (φ13mm)で躯体の鉄筋に 溶接  
して固着する。固着点は、隅角部については、角を形成する  
に1点づつ、辺については、500mm程度の等間隔とする。

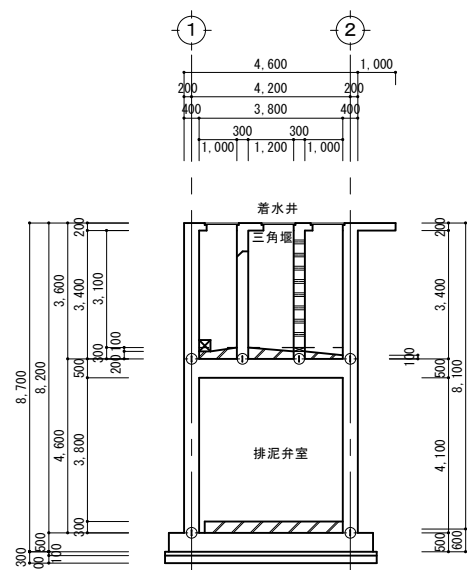
位 置	国頭郡東村字川田内地		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）凝集沈殿池		
測量年月	図 面 説 明	詳 細 図（2/3） 図示による	
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 11 葉		



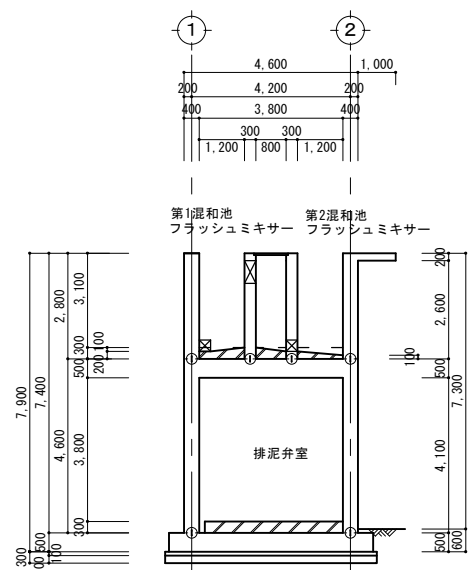
A - A 断面図



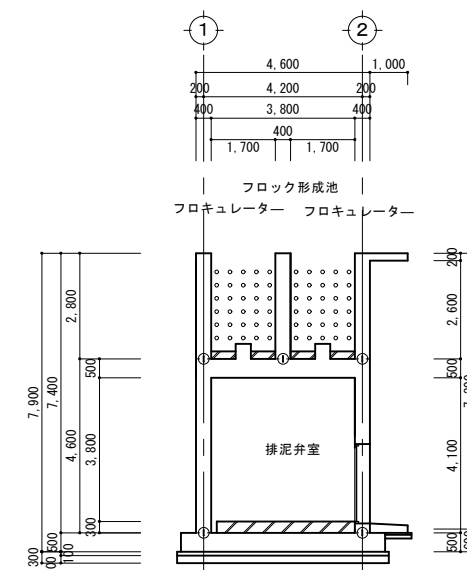
- 凡 例
- 水膨張系止水材 (W-1015 厚10×幅150mm 鉄板芯材(厚0.4mm)入)
  - 外 壁 ( 地 上 )
  - 外 壁 ( 接土部 )
  - 水 槽 内
  - 防水形複層塗材 (複層弾性)
  - ウレタン防水
  - 水道用無溶液型エポキシ樹脂塗装



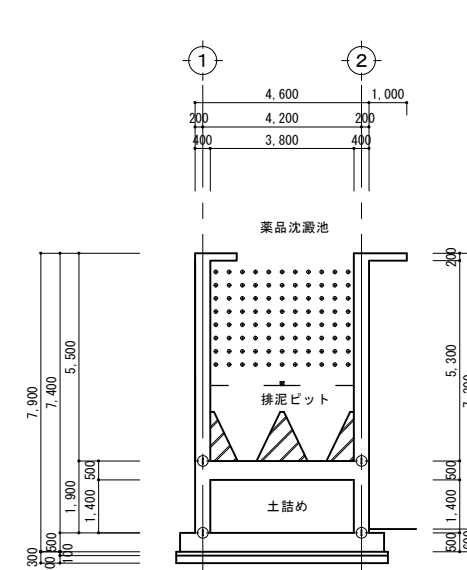
B - B 断面図



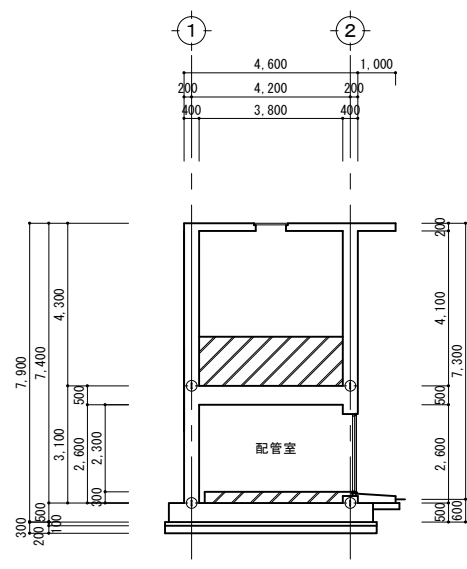
C - C 断面図



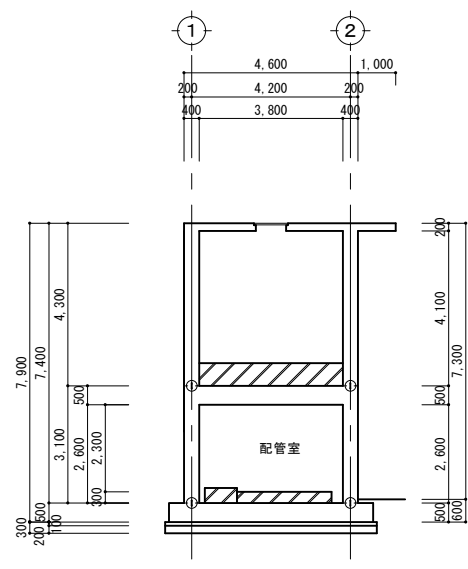
D - D 断面図



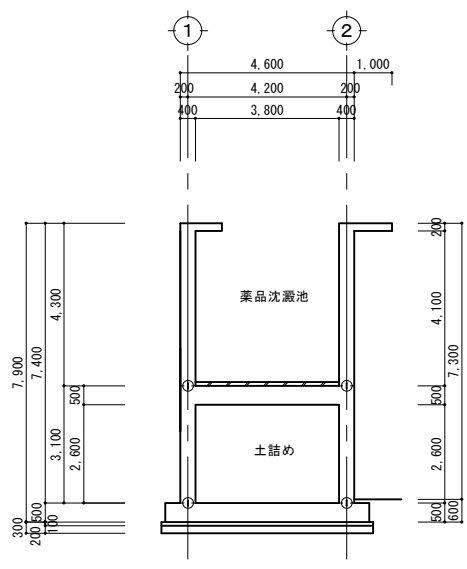
E - E 断面図



F - F 断面図



G - G 断面図



H - H 断面図

位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈殿池		
測量年月		図 面 説 明	詳 細 図 ( 3 / 3 ) S=1/100 (A1) S=1/200 (A3)
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図面番号	25 葉 中 12 葉		



※修正箇所は下線を引くこと  
適用は●印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 建築場所 国頭郡東村字川田内地

(2) 工事種別 

●新築

□増築

□増改築

□改築

(3) 構造設計一級建築士の関与 

□法第20条第一号 (高さ 60m 超)

□法第20条第二号 (RC造高さ 20m 超 S造 4階建以上 木造高さ 13m 超 その他)

注 (3) 構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書を参照して確認する事。

(4) 構造種別 

□木造 (W)

□鉄骨造 (S)

□鉄筋コンクリート造 (RC)

□補強コンクリートブロック造 (CB)

●壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)

□鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)

□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)

□混構造 (木造+鉄骨造)

□プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)

(5) 階 数 

地下 1 階

地上 1 階

塔屋 0 階

(6) 主要用途 機械室

(7) 屋上付属物 

□高架水槽

□キュービクル

□広告塔

□煙 突

(8) 特殊な荷重 

□エレベータ

人乗り (マシナールームレス ロープ式 油圧式)

□リフト kN

□ホイスト kN

□

受水槽 kN

□

(9) 付帯工事 

□門 塙

□擁 壁

□駐輪場

□機械式駐車場

□

□

(10) 増築計画 

□有 ( )

●無

(11) 構造計算ルート X方向 ルート-1 Y方向 ルート-1

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート (レディーミクストコンクリート JIS G 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308)

適用箇所	種 類	設計基準強度 F <sub>c</sub> = N/mm <sup>2</sup>	品質基準強度 F <sub>g</sub> = N/mm <sup>2</sup>	スランプ cm	備 考
捨コンクリート	●普通	18	—	18	
土間コンクリート	●普通	21	21	15	
基礎、底盤	●普通	21	24	12	水セメント比 55%以下
基礎梁	●普通	21	24	12	水セメント比 55%以下
柱、梁、床、壁	●普通	21	24	12	水セメント比 55%以下
ラップルコンクリート	□普通				
押えコンクリート	●普通	21	21	15	

○構造体強度補正値及び構造体強度補正値 (S) は  
建築工事特記仕様書 (その2) による

(2) コンクリートブロック (JIS A 5406)

A種

B種

C種

厚 100 120 150 190

(3) 鉄 筋

	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G 3112)	●SD295A	D16以下	躯体	●重ね継手
	□SD295B			●ガス圧接継手 (D19以上)
	●SD345	D19以上	躯体	□溶接継手
	□SD390			□機械式継手
	□			
高強度せん断補強筋	□材種			( )
	□大臣認定番号 MSRB-			
丸 鋼 (JIS G 3112)	□SR235			各継手の使用詳細については 本仕様5. (2)鉄筋の項の鉄筋 継手等の●にて表示すること
溶接金網 (JIS G 3551)	□SR235			

(4) 鉄 骨

	種 類	使用箇所	現場溶接	備 考
□SS490	□SM400	□SN400A、B、C	□有	□無
□STKR400	□STKR490	□STK400	□有	□無
□BCR295	□BCP235	□BCP325	□有	□無
□SN490B	□SN490C		□有	□無
□SS400			□有	□無
溶接材料	□JIS Z		□有	□無
□SM490A	□SM-FD490A(認定品)		□有	□無

○使用箇所の詳細については別途図示とする

(5) ボルト

□高力ボルト

□F10T (JIS B1186)

□S10T 認定番号 (NBLT-2062)

□F8T 認定番号 (NBLT-0061)

(□ M16 □ M20 □ M22 □ M24)

□ボルト (JIS B1180)

□M12 □ M20 □ 4.8 (4T)

□アンカーボルト

φ=16 ナット □シングル □ダブル

□特殊ベースプレート

: ベースパック

□頭付きスタッドボルト

φ= L= mm 使用箇所 (□柱 □大梁 □小梁)

(6) 屋根、床、壁

材 種	形式 厚 その他	使用箇所
ALC版 (JIS A 5416)	厚	□壁 □床版
折 版	H= 厚	□屋根
デッキプレート (JIS G 3352)	形式 厚	□床版
キーストングレート (JIS G 3352)	形式 厚	□床版
		□外壁
		□外壁

※修正箇所は下線を引くこと  
適用は●印を記入する。

3. 地 盤

(1) 地盤調査資料と調査計画 

●有 (●敷地内 □近隣)

□無 (調査予定 □有 □無)

調 査 項 目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験掘 (支持層の確認)			平板載荷試験			凍状化判定		
スウェーデン式サウンディング試験			現場透水試験			PS層		

注) 上表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎、杭の位置を明記すること)

深 度	土 質	N 値	標準貫入試験	
			10 20 30 40 50 60	
35				○調査地番
30				○位置図
				地質調査報告書参照
25				○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
20				○孔内水位
				○近隣データの調査地番と設計地番とは約 mの距離がある
				○備考

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4. 地業工事

(1) 直接基礎 

□ベタ基礎

●布基礎

□独立基礎

試験掘 

□有

●無

深さ 基礎受天端より 0.50m (±0.05m) 支持層 風化粘板岩層 長期許容支持力度 350 kN/m<sup>2</sup>

(2) 杭基礎 支持層

□RC

□PRC

□PHC

□H鋼

□摩擦杭

□鋼管

□HC-TOPパイル

鋼材 □SS400 □STK400 □A種 □B種 □C種

コンクリート F<sub>c</sub> = 24 N/mm<sup>2</sup> セメント量 ≥3.3 kN/m<sup>3</sup> 鉄 筋 主 筋 SD345 フープ SD295

□打込み

□埋込み (セメントミルク工法)

□GMTOP工法 (平成12年建設省版注指発第176号)

□オールケーシング

□リバースサーキュレーション

□アースドリル

□BH

□深礎

□拡大杭

□底底杭

日本建築センター認定

杭仕様 

□施工計画書承認

□杭施工結果報告書

試験杭 (□有・□無) (□打込み・□載荷) 本

杭 径 (mm)

設計支持力 (kN/本)

杭先端の深さ (m)

本数

特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度 (F<sub>c</sub>) が 36 N/mm<sup>2</sup>以下に適用し、鉄筋の材質は SD390 以下に適用する。

(1) コンクリート 

●コンクリートは JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) に適合するJIS認定工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5による。

●耐久設計基準強度 F<sub>d</sub>

□一般

●標準

□長期

●セメントはJIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

●調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

●寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

●フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。

●測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

●構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS 5T-603によることとし、供試体は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また打ち込み量が150m3を超える場合は150m3ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数採取する。尚、供試体の数量は特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。

●ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

●ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

●コンクリート打込み中及び打込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。

●乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

(2) 鉄 筋 

●鉄筋はJIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5による。

□高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるD種1号適合品とする。

●鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。

●鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級			鉄筋の径
	(1) 引張り最小部位	(2) (1) 以外の部位 (注)		
	A 級	B 級	SA級	
●重ね継手	●40d □35d □( )d			●D16以下
●圧接継手	●告示1463号第2項各号			●D19以上
□溶接継手	□告示1463号第3項各号			□D( ) 以上
□機械式継手	□告示1463号第4項各号			□D( ) 以上

注) (1) 以外の部位にける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取付した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準 (建築物の構造関係技術基準解説書 2007)」によって検討した部位の条件・仕様によること。

●D16以下は、すべて重ね継手とする。

□継手部分の施工要領は 社) 日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事) による。

●継手部の検査方法 

外観検査 

□有

□無、

引張試験 

□有

□無、

超音波探傷試験 

□有

□無

ガス圧接部分の検査は超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張り試験も併用し、1回の試験は 5 本以上とする。

(1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で 200 箇所程度とする)

□柱の帯筋 (フープ) の加工方法は、□H型 (タガ型) □W型 (溶接型) □S型 (スパイラル型) とする。

●コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京府「取扱要綱」第4条の試験機関」で行うこと。

●試験機関名 工事監理者が指定する機関

●代行業者名 工事監理者が指定する業者

●代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型 枠 

●材料 合板厚 12mmを標準とする。

□施工はJASS5による。

●型枠存置期間

種類 部位	せ き 板		支 柱	
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ上	はり下
早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント
高炉セメント A種	シリカセメント A種	高炉セメント A種	シリカセメント A種	高炉セメント A種

材 15℃以上 2 3 4 6 8 17 28

令 5℃-15℃ 3 5 6 10 12 25 28

(日) 5℃未満 5 8 10 16 15 28 28

コンクリートの圧縮強度 5.0N/mm<sup>2</sup> 設計基準強度の50% 設計基準強度の 85% 100%

注 1) 片ばり、底、スパン8.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注 2) 大ばりの変位の張り代えは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

注 3) 支筋の張り代えは、必ず直上のコンクリート打ち後とする。

注 4) 張りかえ後の変位頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注 5) 変位の張りかえは、小ばり範囲で行う。スラブを行う、一部に全部の変位を取り払って、張りかえをしない。

注 6) 直上層に著しく大きい振動荷重がある場合においては、支筋 (大梁の変位を除く) の張りかえを行わないこと。

注 7) 支筋の張りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を考慮しないように行うこと。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による 

□日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」

□社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」

□鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの 

□製作工場

□製作要領書

□工作図

□施工計画書

□認定または登録工場 (大臣認定 S H M R J グレード-都登録-1-12-13-ラング)

□材料規格証明書※、または試験成績書

□鋼材

□高力ボルト

□特殊ボルト

□頭付スタッド

※) 日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質管理ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート

□社内検査表

(3) 工事監理者が行う検査項目 (□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること) 

□現寸検査

□組立

□開先検査

□製品検査

□建方検査

□

(4) 接合部の溶接は下記によること 

□平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ

□鉄骨造等の建築物の工事に關する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第12章)

□日本建築学会「溶接工作規程、同解説 {1}, {2}, {3}, {4}, {5}, {6}, {7}, {8}, {9}」

□日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

(5) 接合部の検査 

□溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所

検査方法

検査率又は検査数

備 考

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	
□完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観試験 (※)	% 個	% 個	% 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による (目視及び計測)
□すみ肉溶接部	超音波探傷検査	% 個	% 個	% 個	
□内 部検査 (注)	□緩急試験	% 個	% 個	% 個	□溶接部
	□非破壊検査	% 個	% 個	% 個	
□マクロ試験・その他		% 個	% 個	% 個	
□外観試験 (※)		% 個	% 個	% 個	

第三者検査機関名 建築主、工事監理者又は工事監理者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう (都知事登録 号)

注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと

注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対処案を建築主事に報告すること

□高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを、座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置した発生した、赤さび状態であること。ただしショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

□高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること) 

耐力導入試験 

□要

□否

高力ボルトすべり係数試験 

□要

□否

□一次締め後にマーキングを行い、二次締め後のずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。

□トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピン検査が破断していることを確認する。

(6) 防錆塗装 

□防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、□JIS K 5621、□JIS K 5625、を使用して、4つ星2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。

□現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料 

□ケイ酸カルシウム板

□吹付け岩綿

7. 設備関係 令第129条の2の4の事項

●建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

●建築設備 (昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。

□屋上から突出する水槽・煙突・冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。

□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けた場合を除き、90cm以下とすること。

□煙突で、屋内にある部分は、鉄筋に対するかぶり厚さは5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さ25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造もしくはコンクリートブロック造とすること。

●建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障がない構造とすること。

●建築物の部分を通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等、有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

●管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

●管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等、有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

□法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにおいて、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

●特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。

●床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし、管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

8. その他

●諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

●必要に応じて記録写真を取り保管すること。

●各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い、工事監理者に報告すること。

●鉄筋コンクリート構造配筋標準図になき場合は、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説 (日本建築学会) に依る。

位 置 国頭郡東村字川田内地

工 事 名 川田浄水場第1期拡張工事 (土木建築) 凝集沈殿池

測量年月

図 面 説 明 構造設計特記仕様 NO SCALE

設 計

審 査

課 長 課 長 補 佐 係

図面番号 25 葉 中 13 葉

# 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

## １．一般事項

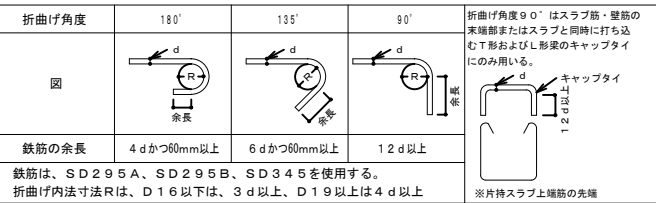
(１) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(２) 記号

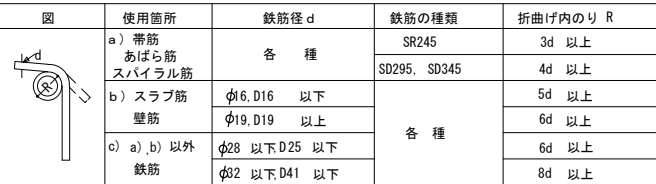
d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 D…部材の成 R…直径  
@…間隔 r…半径  $\phi$ …中心線  $\phi$ …部材間の内法距離 h…部材間の内法高さ  
ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S. HOOP…補強帯筋  $\phi$ …直径

## ２．鉄筋加工、かぶり

(１) 鉄筋末端部の折曲げの形状



(２) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90以下

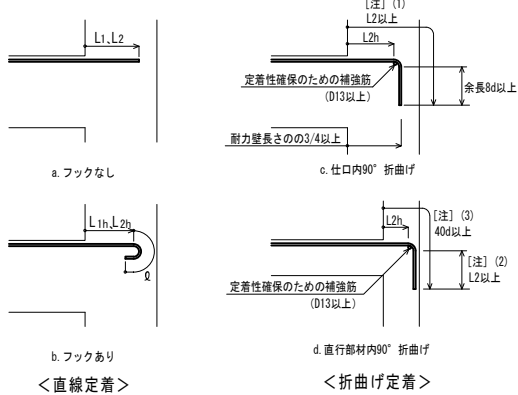


(３) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ ※経量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

コンクリートの 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	重ね継手長さ		耐力部材(耐力壁・壁梁・基礎梁)および片持ち部材の引張り鉄筋の定着長さ		非耐力部材(小梁・スラブ)の引張り鉄筋の定着長さ		非耐力部材(小梁・スラブ)の圧縮鉄筋の定着長さ	
	L1 (L1h)	L2 (L2h)	L2 (L2h)	L2 (L2h)	L2 (L2h)	L2 (L2h)	L3 (L3h)	
	鉄筋種類	鉄筋種類	鉄筋種類	鉄筋種類	鉄筋種類	鉄筋種類	鉄筋種類	
	SD295A SD295B	SD345 SD295B	SD295A SD295B	SD345 SD295B	SD295A SD295B	SD345 SD295B	小梁 スラブ	
18	4.5d (3.5d)	5.0d (3.5d)	4.0d (2.0d)	4.0d (2.0d)	3.0d (1.5d)	3.5d (2.0d)	2.0d (1.0d)	1.0d (0.5d)
21	4.0d (3.0d)	4.5d (3.5d)	3.5d (2.0d)	4.0d (2.0d)	3.0d (1.5d)	3.5d (2.0d)	2.0d (1.0d)	1.0d (0.5d)
24	3.5d (2.5d)	4.0d (3.0d)	3.5d (1.5d)	4.0d (2.0d)	2.5d (1.5d)	3.0d (1.5d)	2.0d (1.0d)	1.0d (0.5d)
27	3.5d (2.5d)	4.0d (3.0d)	3.0d (1.5d)	3.5d (2.0d)	2.5d (1.5d)	3.0d (1.5d)	2.0d (1.0d)	1.0d (0.5d)
30	3.5d (2.5d)	3.5d (2.5d)	3.0d (1.5d)	3.5d (2.0d)	2.5d (1.5d)	3.0d (1.5d)	2.0d (1.0d)	1.0d (0.5d)

【注】 (1) 片持ち形式の圧縮鉄筋の長さL3(L3h)以上とする。ただし、地震時の設計用直度度を大きく設計する場合は、設計図書に定着長を記載するか、またはL1を25d以上とする。

【定着方法】定着金物を使用する場合は各メーカーの仕様にならう。



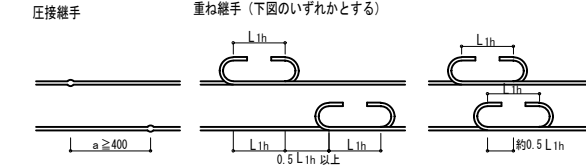
(1) 耐力部材の耐力壁・壁梁仕口内に90°折曲げ定着する場合で、フック付き定着長さL2hを満足しない場合は、定着起点から鉄筋先端までの長さを表(3)のL2以上確保するとともに、投影定着長さは耐力壁長さの3/4以上、折曲げ終点から鉄筋先端までは8d以上確保し、折曲げ部内側にD13以上の補強筋を配置する。

(2) 耐力部材または小梁・片持ち梁・片持ちスラブの主筋を直行部材内に折曲げ定着する場合は、折曲げ終点から鉄筋先端までの長さを表(3)のL2以上確保するとともに、折曲げ部内側にD13以上の補強筋を配置する。

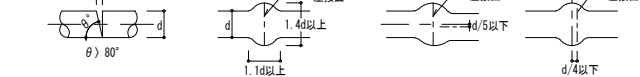
(3) スラブ主筋を折曲げ定着する場合で、定着長さが表(3)のフック付き定着長さL2hを満足しない場合は、定着起点から鉄筋先端までの長さを40d以上確保する。

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. 原則としてD22以上の異形鉄筋には重ね継手は用いてはならない。



ガス圧接形状



(４) かぶり厚さ (単位 : mm)

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ <sup>(2)</sup>	20 <sup>(1)</sup>	30 <sup>(1)</sup>
非耐力壁	20 <sup>(1)</sup>	30 <sup>(1)</sup>
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30 <sup>(1)</sup>	40 <sup>(1)</sup>
耐力壁・非耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分	40	50
基礎梁側面・基礎つなぎ梁側面・小梁・方持ち梁	60 <sup>(2)</sup>	70
基礎梁底面・基礎つなぎ梁底面	60 <sup>(2)</sup>	70

【注】 (1) 屋外側では耐久性上有効な仕上げがない場合は10mm増しとする。又、軽量コンクリートの場合は、さらに10mm増しの値とする。

(2) 捨てコンクリート部分を除く。杭部分は杭頭位置よりの寸法。

(3) 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。【8-(1)のa参照】

(５) 鉄筋のあき

a. 異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上  
b. 経量材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上

(６) 鉄筋のフック (a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

a. 壁梁が1m以下の壁横筋の末端 b. あばら筋・帯筋 c. 煙突の鉄筋  
d. 柱・梁（基礎梁を除く）の出す部分の鉄筋（右図参照）  
e. 単純梁の下端筋  
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

(７) 杭基礎 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(１) A形基礎の杭全てに補強を行う

既定杭 (PHC, PRC)

既定杭 (SC, 鋼管)

所定の位置に止まった場合

所定より低く止まった場合

所定の位置に止まった場合

杭径

補強筋

杭頭処理

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

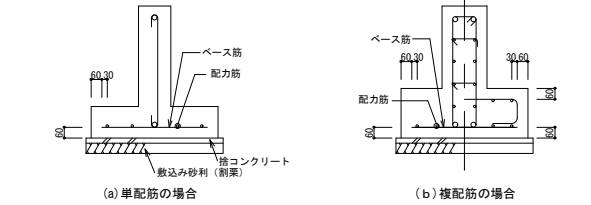
杭間隔は2×φかつφ+1000以上

杭間隔は2×φかつφ+1000以上

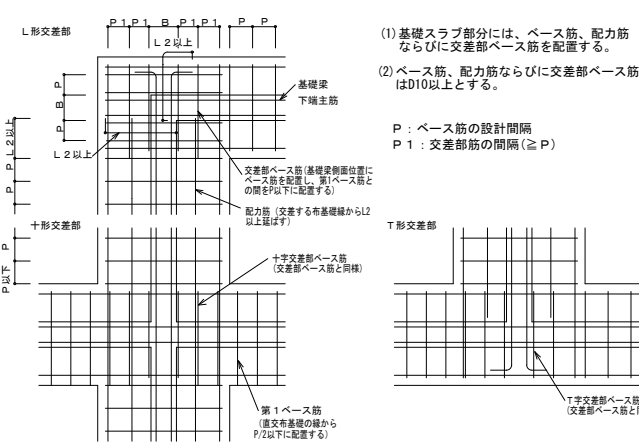
## ４．基礎

(１) 布基礎

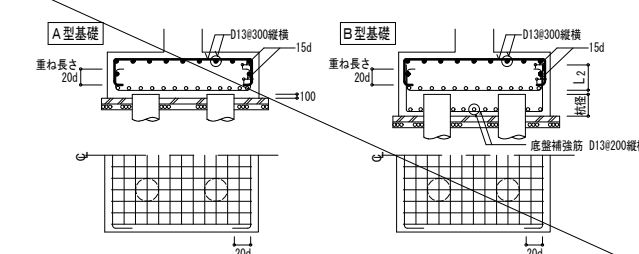
布基礎断面形状および配筋 (※最少かぶり)



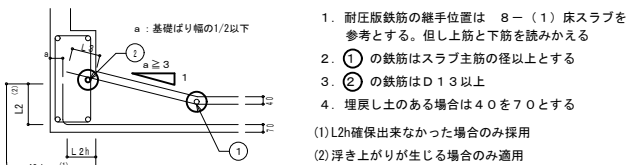
布基礎交差部の配筋 (平面)



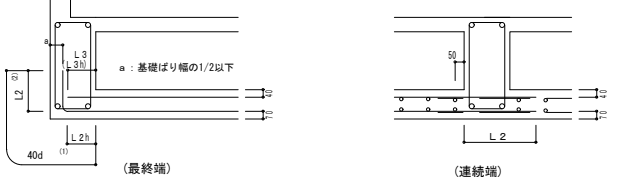
(２) 杭基礎



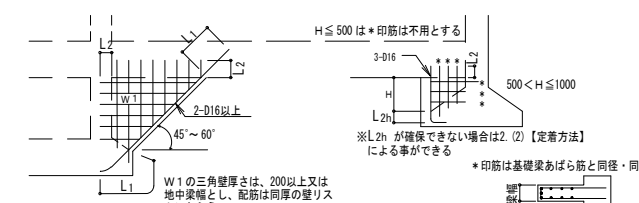
(３) べた基礎



ハンチ付耐圧スラブ

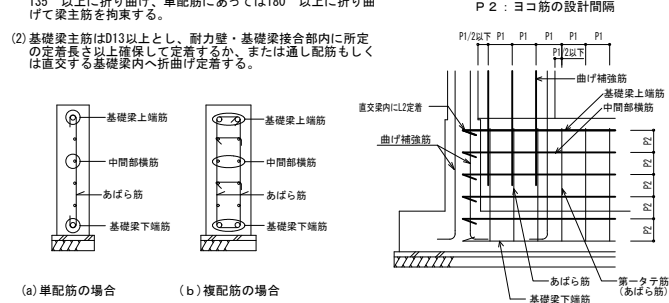


(４) 基礎接合部の補強



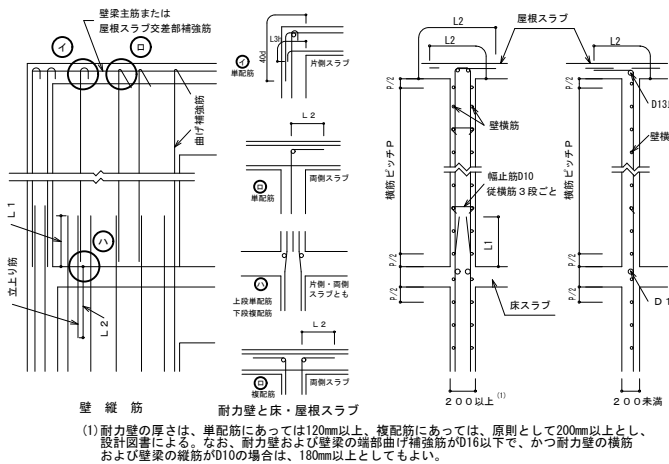
## ５．基礎梁

(1) 地中梁内鉄筋はあばら筋形式とし、複配筋にあっては末端を135°以上に折り曲げ、単配筋にあっては180°以上に折り曲げて梁主筋を拘束する。



## ５．耐力壁

(１) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



壁縦筋

耐力壁と床・屋根スラブ

(1) 耐力壁の厚さは、単配筋にあっては120mm以上、複配筋にあっては、原則として200mm以上とし、設計図書による。なお、耐力壁および壁梁の端部曲げ補強筋がφ16以下で、かつ耐力壁の横筋および壁梁の縦筋がφ10の場合は、180mm以上としてもよい。

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

打継ぎ面

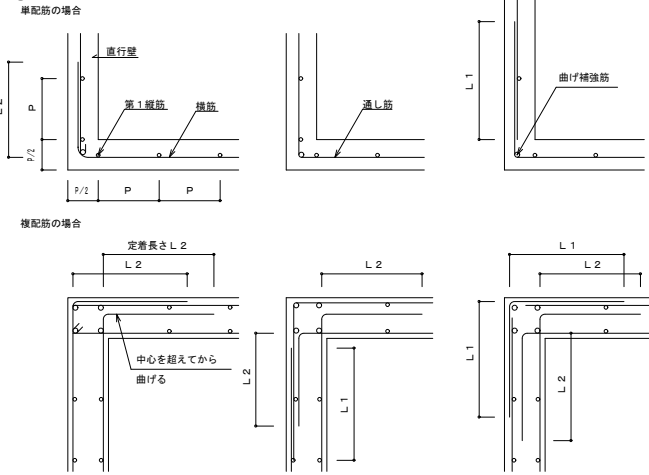
打継ぎ面

# 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

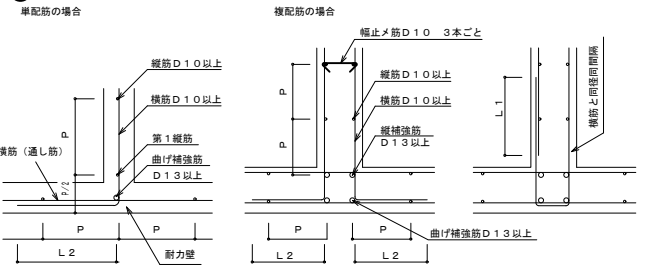
L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）の2-（3）による。

## （4）耐力壁が交差する場合（平面）

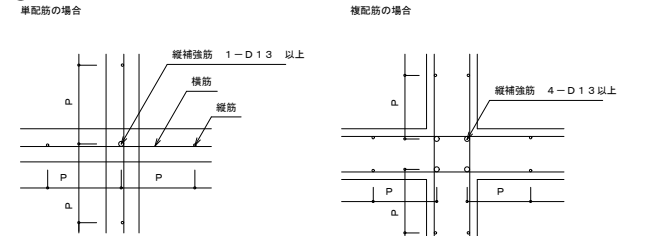
### ⑤ L形交差部の縦・横筋などの配置



### ⑥ T形交差部の縦・横筋の配置



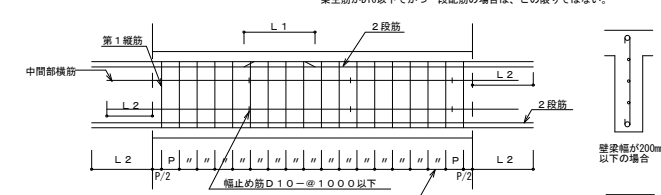
### ⑦ 十形交差部の縦・横筋などの配置



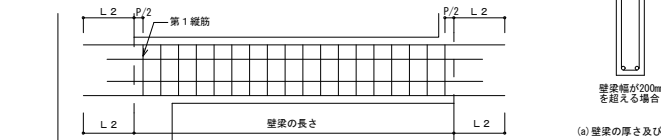
※交差部では原則として横筋の継手を設けない。

## 7. 壁梁、小梁

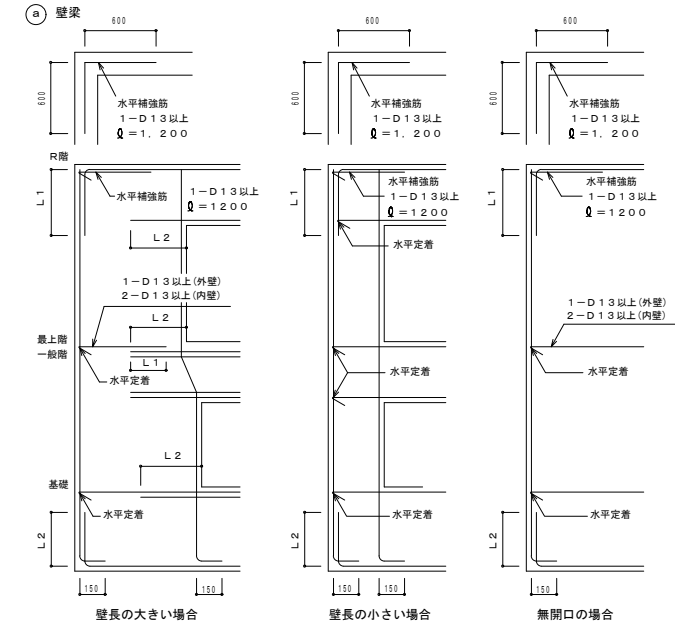
### （1）壁梁の標準配筋図



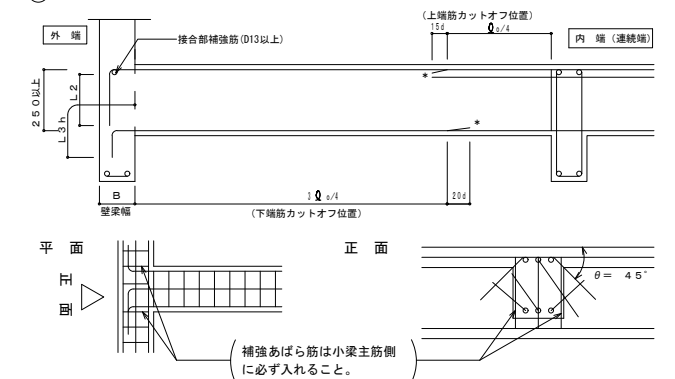
### （2）壁梁の範囲



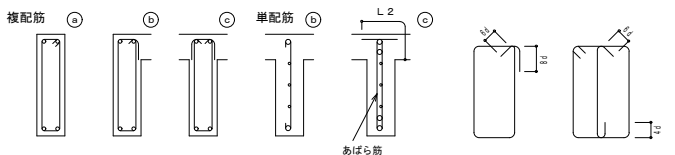
## （3）定着



### ⑧ 小梁の定着・継手位置及びトップ筋長さ



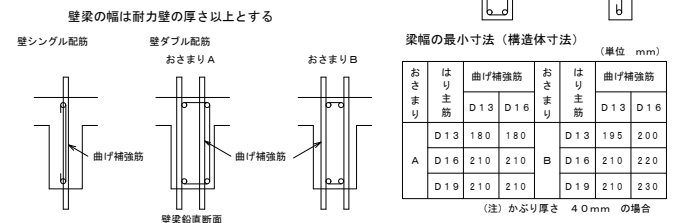
## （4）あばら筋の型



### （イ）原則として ⑨ のフック先曲げとする。

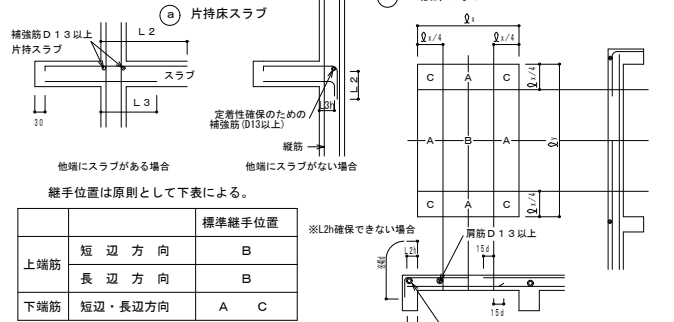
片側床版付（L型）梁で ⑨、両側床版付（T型）梁で ⑩ とすることができる。  
（ロ）フックの位置は ⑨ にあつては交互、⑩ にあつてはスラブ側とする。

## （5）壁梁と壁のおさまり

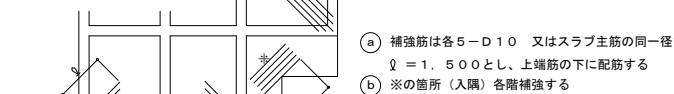


## 8. 床板

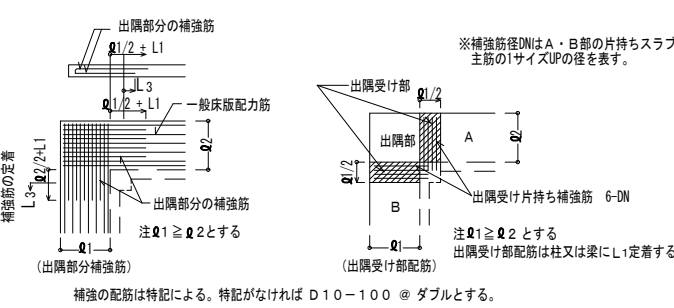
### （1）定着および継手



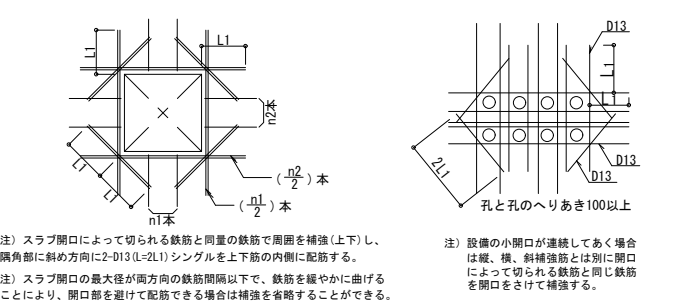
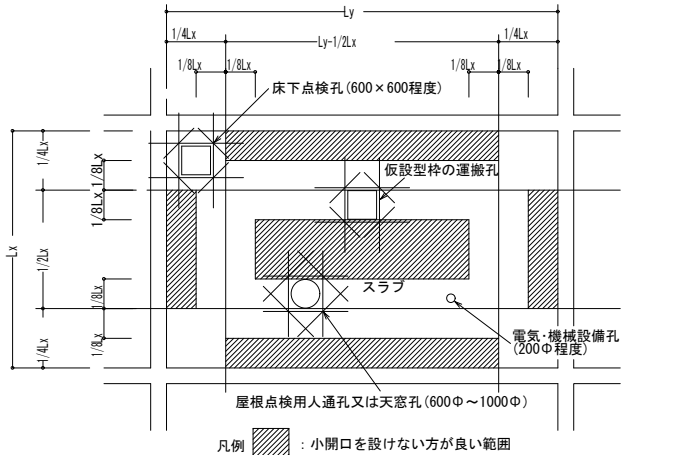
### （2）屋根スラブの補強



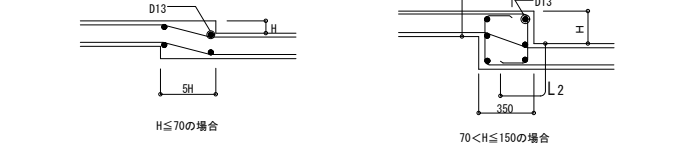
### （3）片持ちスラブの出隅補強



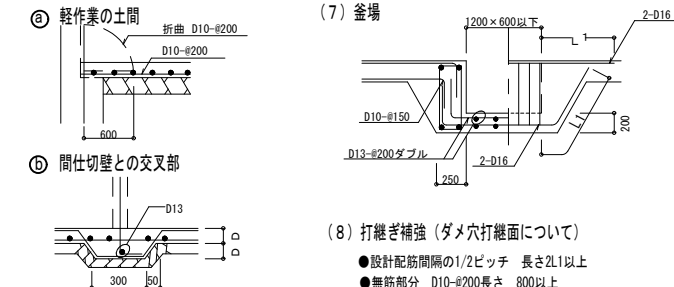
### （4）床板開口部の補強



## （5）床板段差

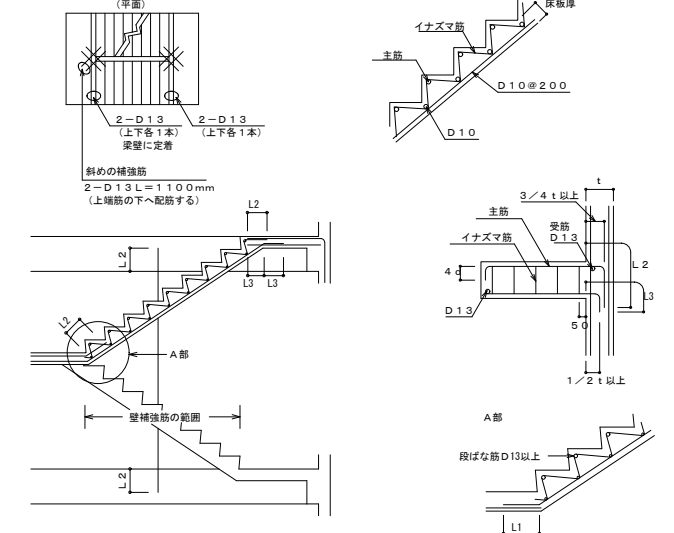


## （6）土間コンクリート

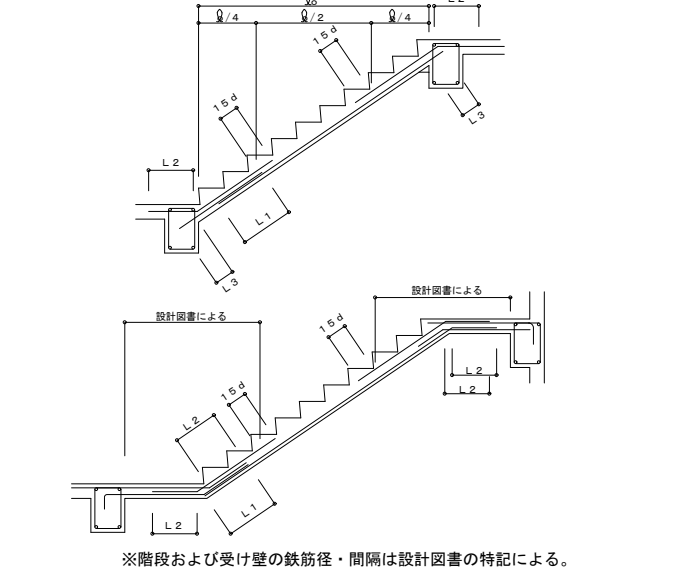


## 9. 階段

### （1）片持ち階段



### （2）スラブ階段



位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）凝集沈殿池		
測量年月		図面説明	壁式鉄筋コンクリート 構造配筋標準図（2）
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	保
図面番号	25 葉 中 15 葉		

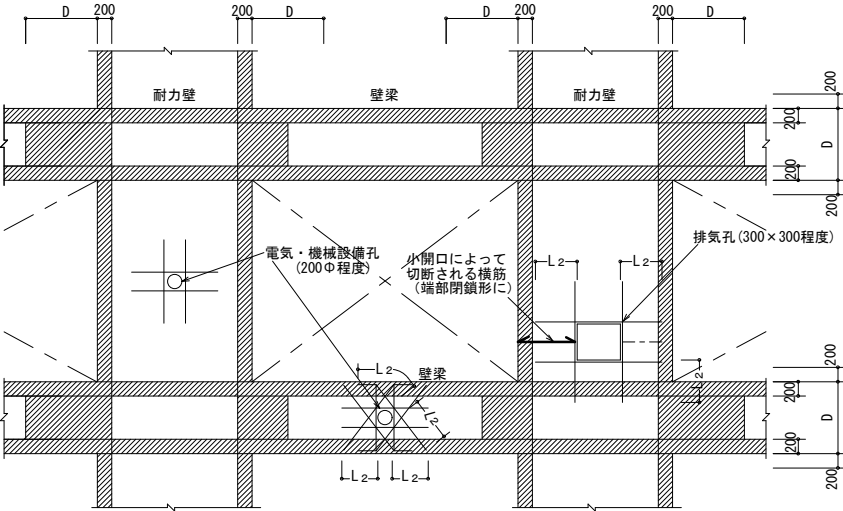
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）

L＝鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）の2－（3）による。

10. 梁貫通孔補強

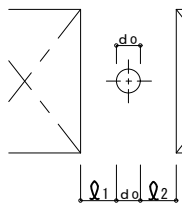
（1）既製品（使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと）  
□ リング型 □ パイプ型 □ 金網型 □ プレート型 □

（2）耐力壁および壁ばりの小開口部の補強 但し、 $\phi \leq D/3$ とする

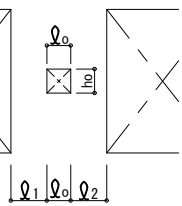


- ※1. 小開口周囲には所要の定着長さ以上確保した開口補強筋を配筋する。  
※2. 小開口設置により切断された横筋は閉鎖形とする。  
※3. 小開口周りの斜め補強筋は、縦および横筋に置き換えてよい。

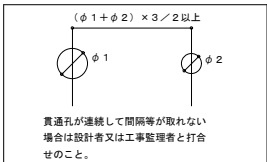
凡例 : 小開口を設けない方がよい範囲



（小開口の形状・配置条件）

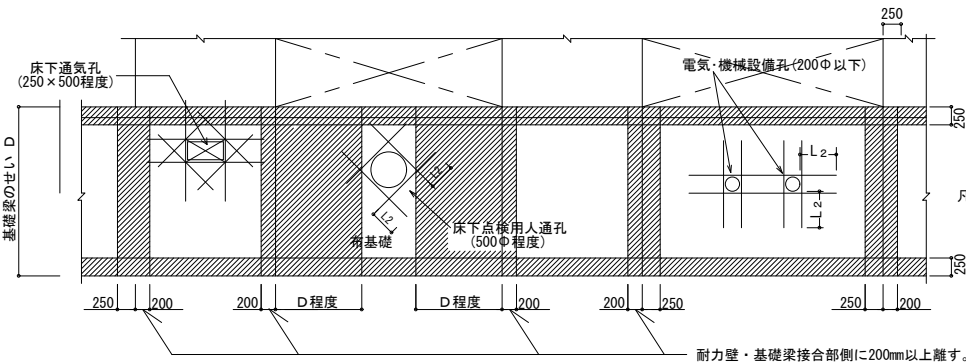


（小開口間隔）



（小開口間隔）

（1）基礎梁および耐力壁・基礎梁接合部の小開口補強



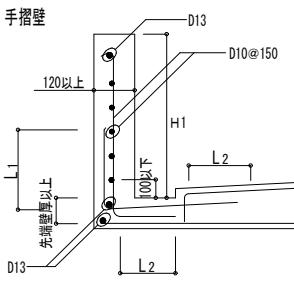
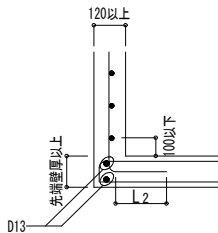
凡例 : 小開口を設けない方がよい範囲

- ※1. 小開口周囲の補強筋の径および本数は設計図書による。  
※2. 小開口周囲の補強筋のうち横筋および斜め筋は所定の定着長さ以上確保する。  
※3. 小開口周囲の補強筋のうち縦筋は閉鎖型とするか基礎梁縦筋に沿って配筋するかいずれかとする。  
※4. 基礎梁の貫通孔補強は原則として既製品を使用する。

11. その他

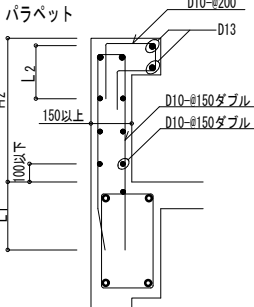
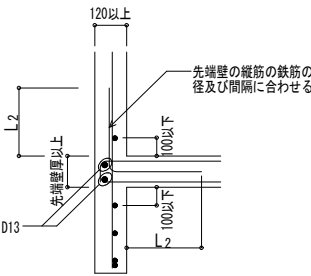
（1）手摺、パラペット

手摺受けスラブ(垂れ壁のない場合)



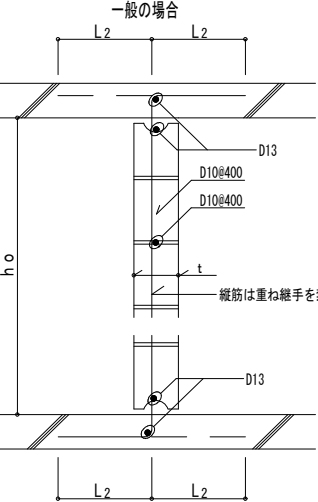
（但し、 $H1 \geq 1,100$  以上の場合、設計図による）

手摺受けスラブ(垂れ壁のある場合)

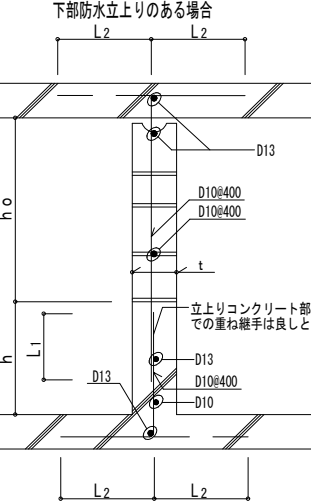


（但し、 $H2 \geq 800$  以上の場合、設計図による）

（2）コンクリートブロック帳壁

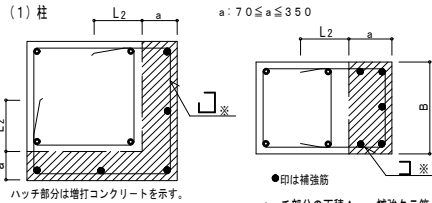


- 注)  $h \leq 2.5t$  かつ  $3500$  以下とする。但し直交方向  $2.5t$  以内に壁、又は柱がある場合は除く  
注)  $h$  はコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、重ね定着長さ以上とする。  
注) 継手部は必ずモルタルを充填すること



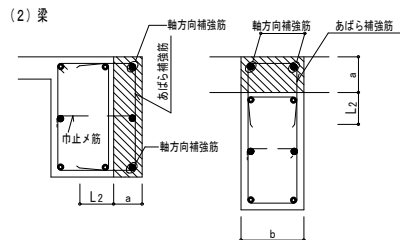
12. 柱、梁増打コンクリート補強

（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）



ハッチ部分の面積 $A \text{ cm}^2$ 補強タチ筋		
$A \leq 500$	$500 \leq A < 1000$	$1000 \leq A < 1500$
3-D16	4-D16	6-D16

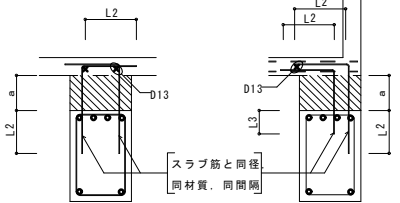
●補強タチ筋の定着は  $20d$  以上とする。



- 補強筋は、梁主筋の1段落し径 ( $D16$  以上) とする。  
●あばら補強筋は梁と同径、同ピッチ、同材質とする。ただし、高強度せん断補強筋を使用する場合は  $SD295A$  の同径、同ピッチとしてよい。  
●増し打ち部の腹筋は梁の腹筋と合せる。  
● $b > 350$  の場合は補強筋を3本とする。又、梁巾等の大きい場合は鉄筋ピッチは  $300$  以下となる様に本数調整する。  
● $a$  は  $70 \leq a \leq 500$  の場合適用。  
●梁下増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。  
●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。  
●軸方向補強筋の定着は  $30d$  以上とする。

13. スラブの打継ぎ補強等

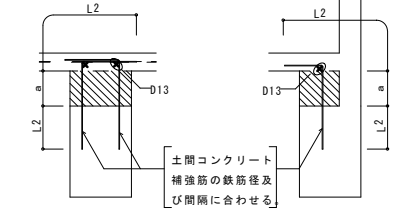
（1）土間スラブの打継ぎ補強



中間部  
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

- (1) 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。  
(2)  $a$  が  $300$  以下の場合に限る。

（2）土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

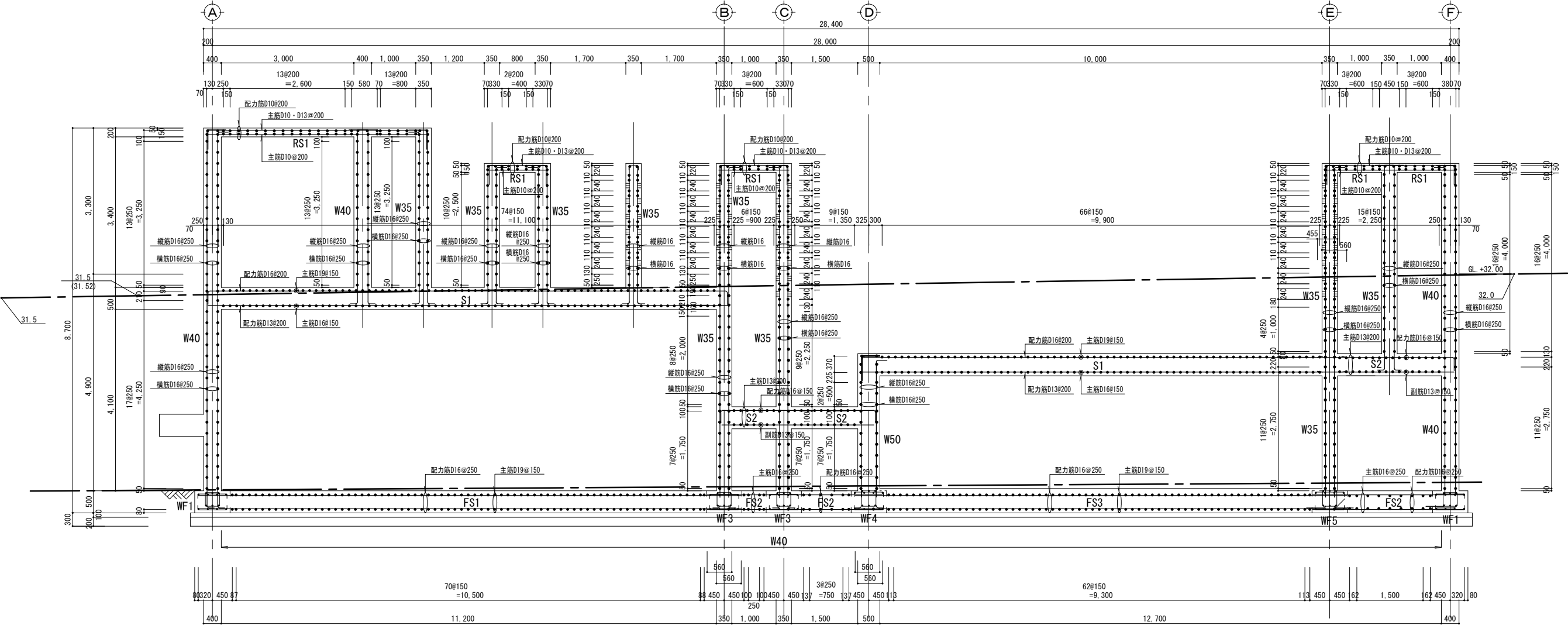


中間部  
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

位 置	国頭郡東村字川田地内		
工 事 名	川田浄水場第1期拡張工事（土木建築）凝集沈殿池		
測量年月		図 面 説 明	壁式鉄筋コンクリート 構造配筋標準図（3）
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	保
図 面 番 号	25 葉 中 16 葉		



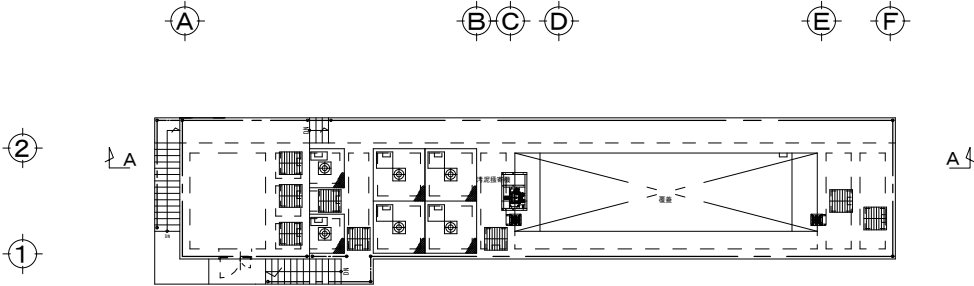
凝集沈殿池 配筋図 (2)



A - A断面配筋図

< 共通事項 >

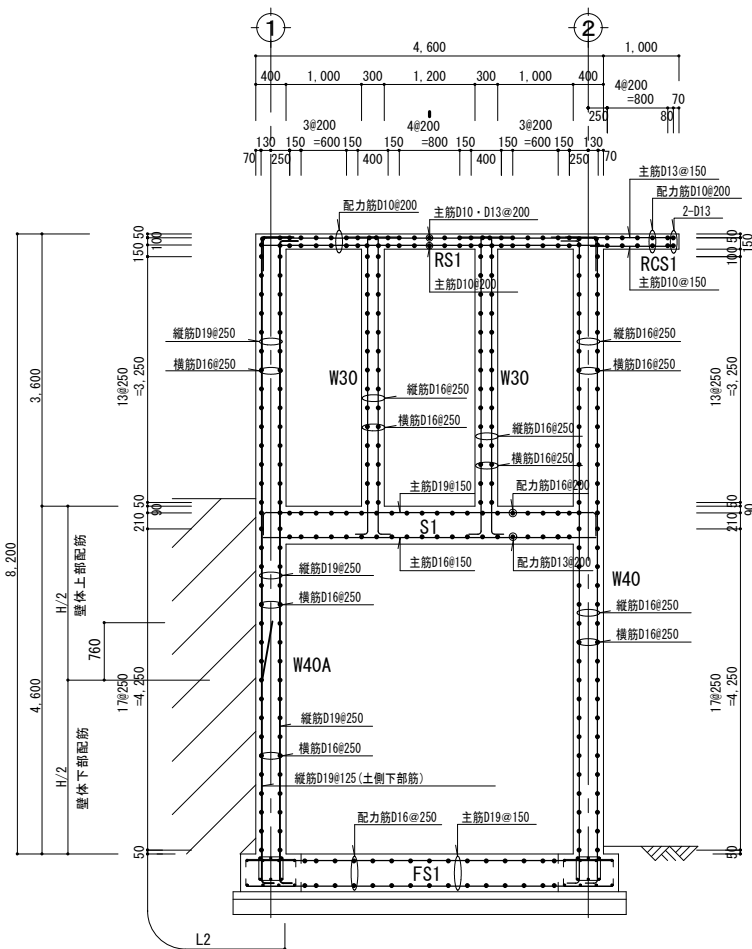
- (注記)
- ※ かぶり厚さは土部80mm、水部・他部は70mmとし  
鉄筋コンクリート構造配筋標準図-(1/3) の表より優先する
  - ※ 組立筋 : □ - D13 を 1.00m<sup>2</sup> あたり 1ヶ所とする。
  - ※ 巾止筋 : ▽ - D13 を 1.00m<sup>2</sup> あたり 1ヶ所とする。



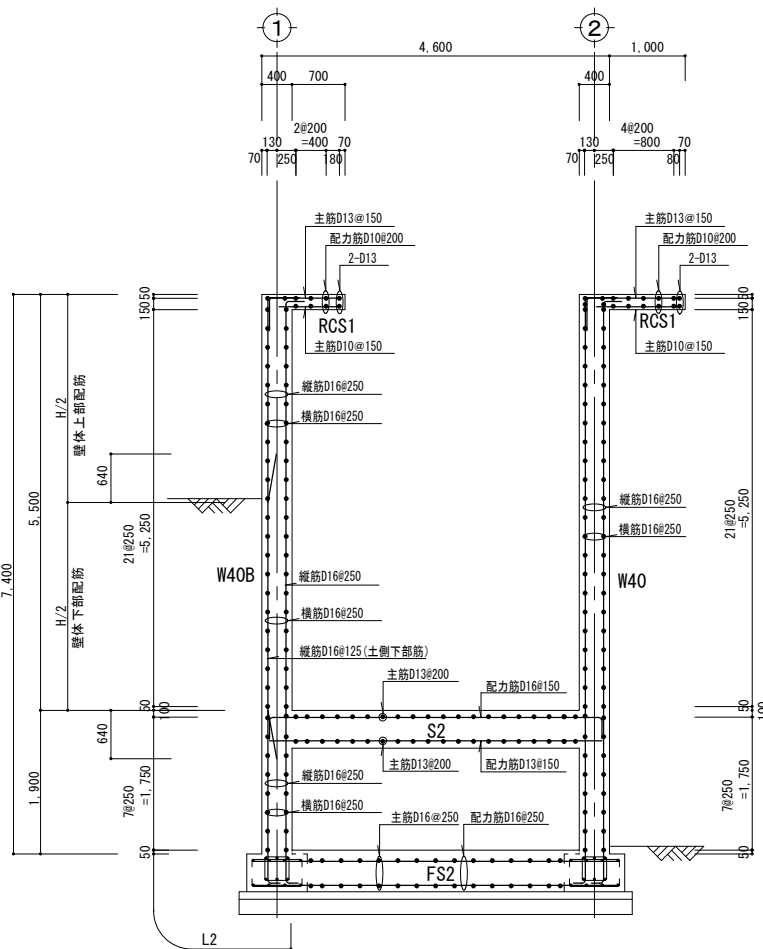
位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈殿池		
測量年月		図面説明	
測量			
設計			配筋図(2/9)
審査			S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 18 葉		



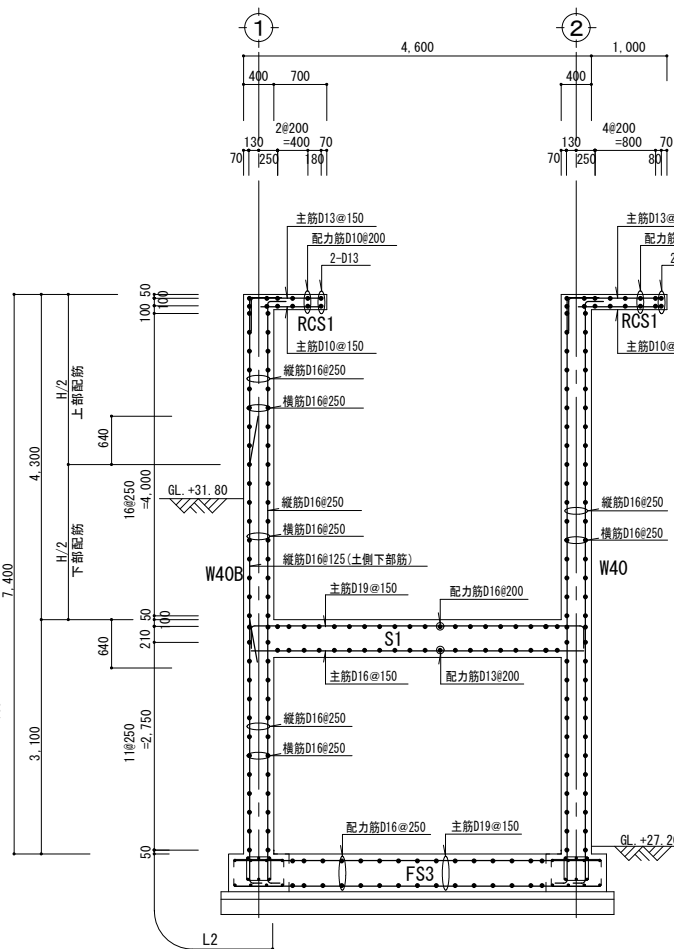
凝集沈殿池 配筋図 (3)



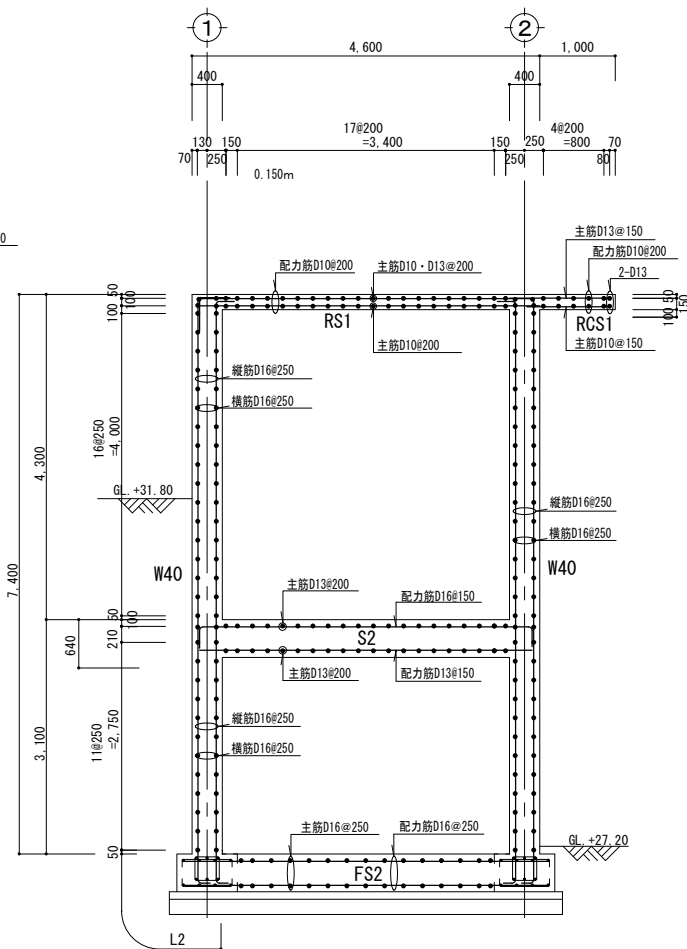
B - B 断面配筋図



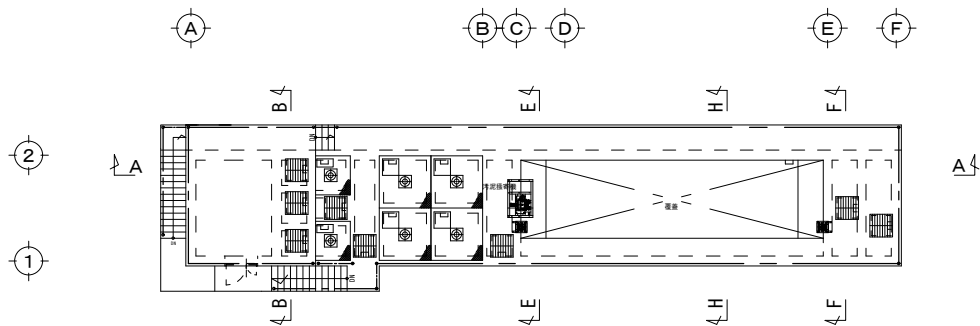
E - E 断面配筋図



H - H 断面配筋図

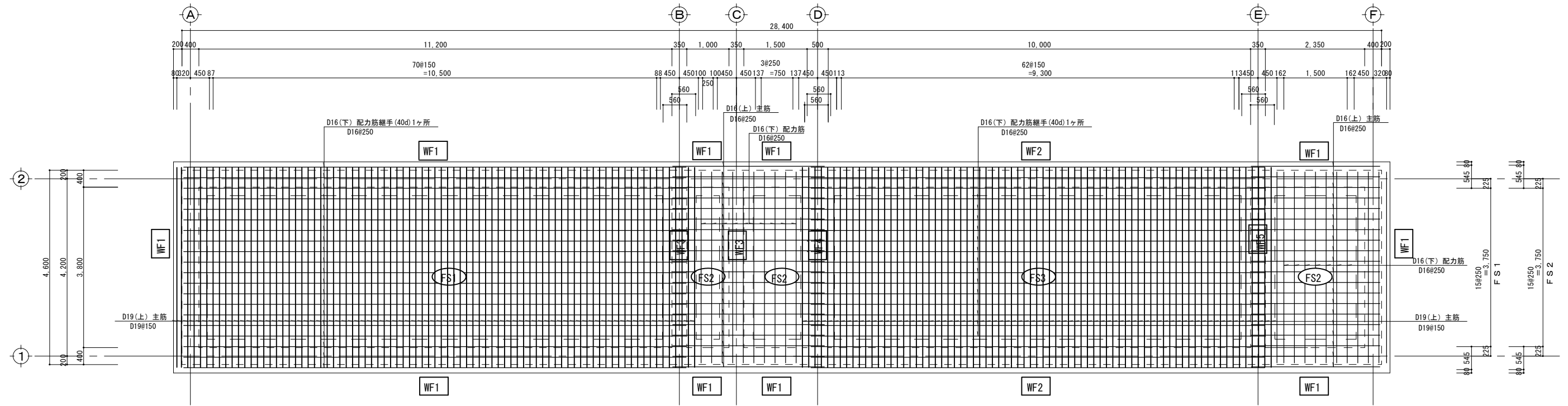


F - F 断面配筋図

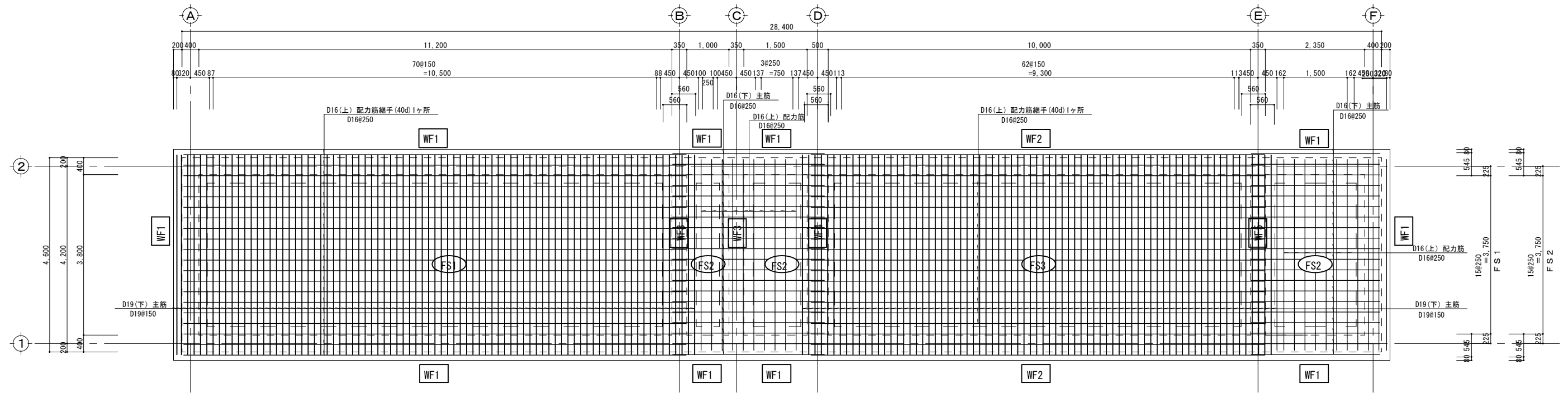


位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈殿池		
測量年月		図面説明	配筋図 (3/9) S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 19 葉		

凝集沈殿池 配筋図 (4)



底盤上端筋

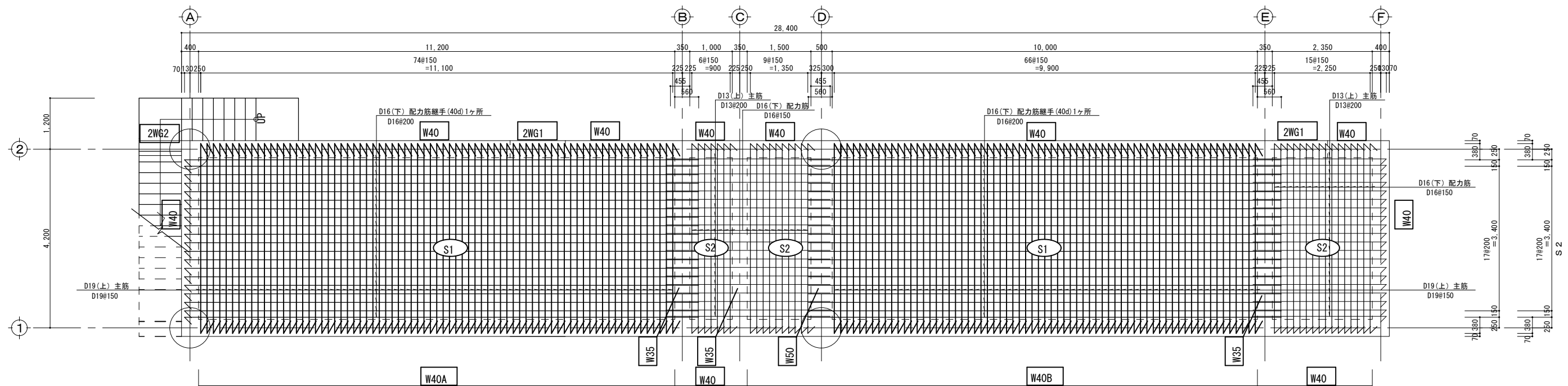


底盤下端筋

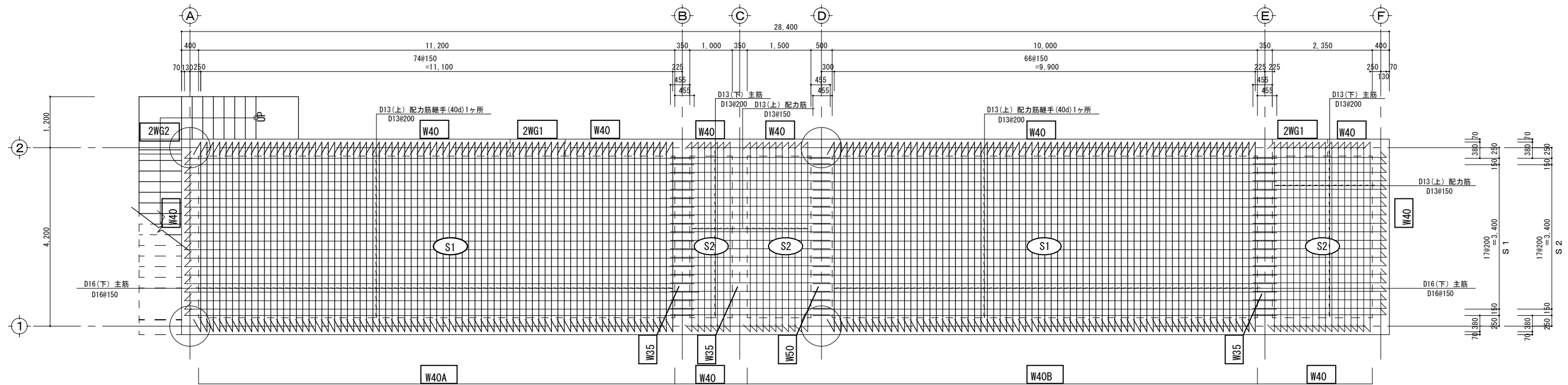
位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事 (土木建築) 凝集沈殿池		
測量年月		図面説明	配筋図 (4/9) S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 20 葉		

凝集沈殿池 配筋図 (5)

※○部は配筋図(1/9)2階梁伏図 参照



床版上端筋



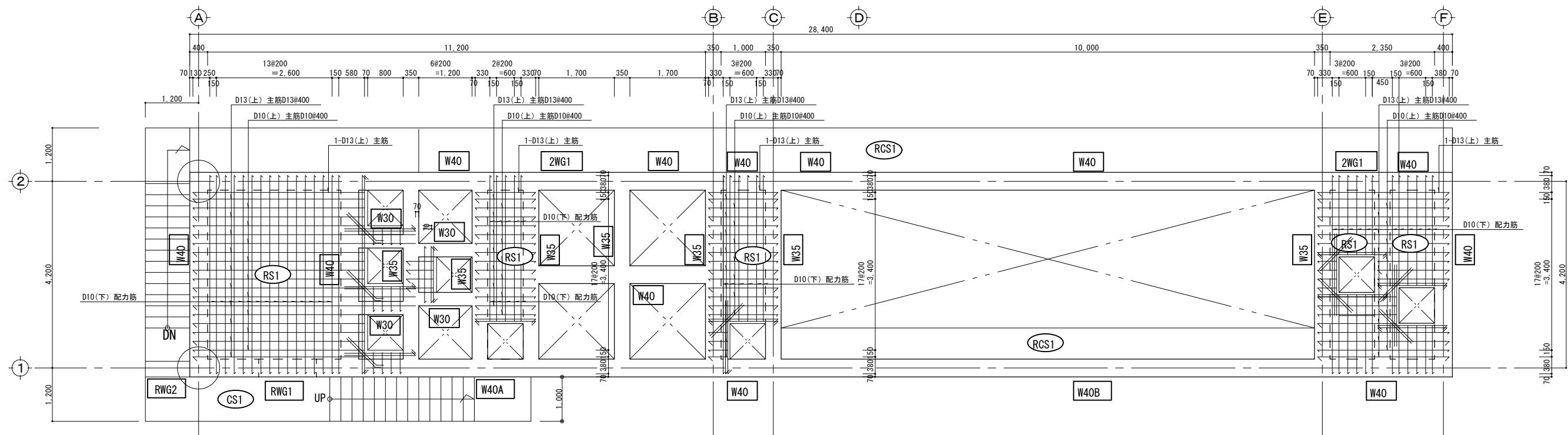
床版下端筋

位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈殿池		
測量年月		図面説明	配筋図(5/9) S=1/50(A1) S=1/100(A3)
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 21 葉		

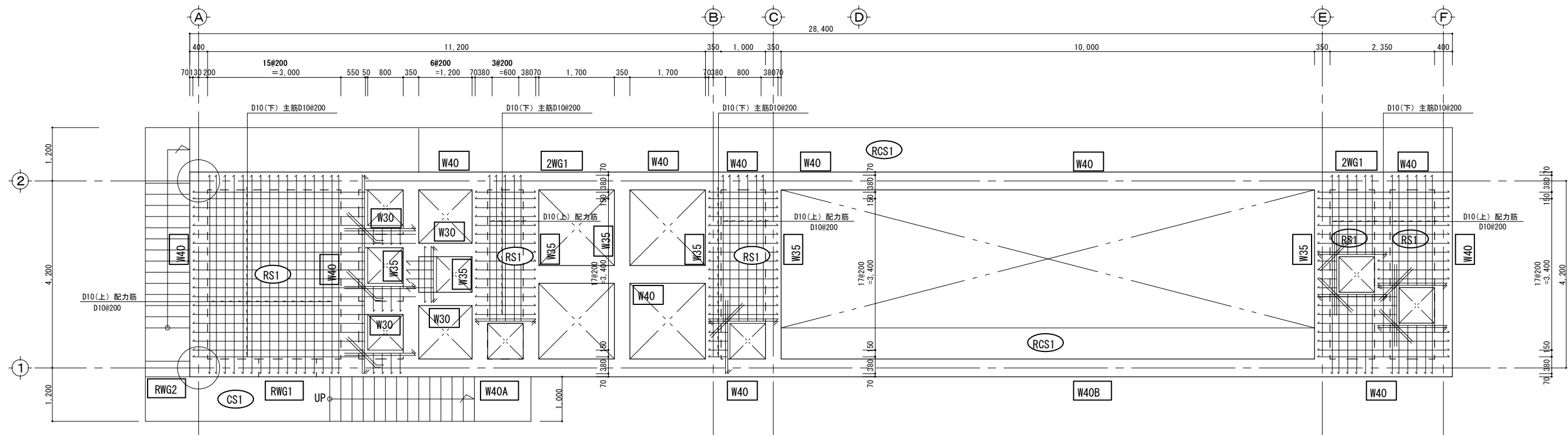
凝集沈殿池 配筋図 ( 6 )

S = 1 / 5 0

※ ○部は配筋図 ( 1 / 9 ) R階梁伏図 参照



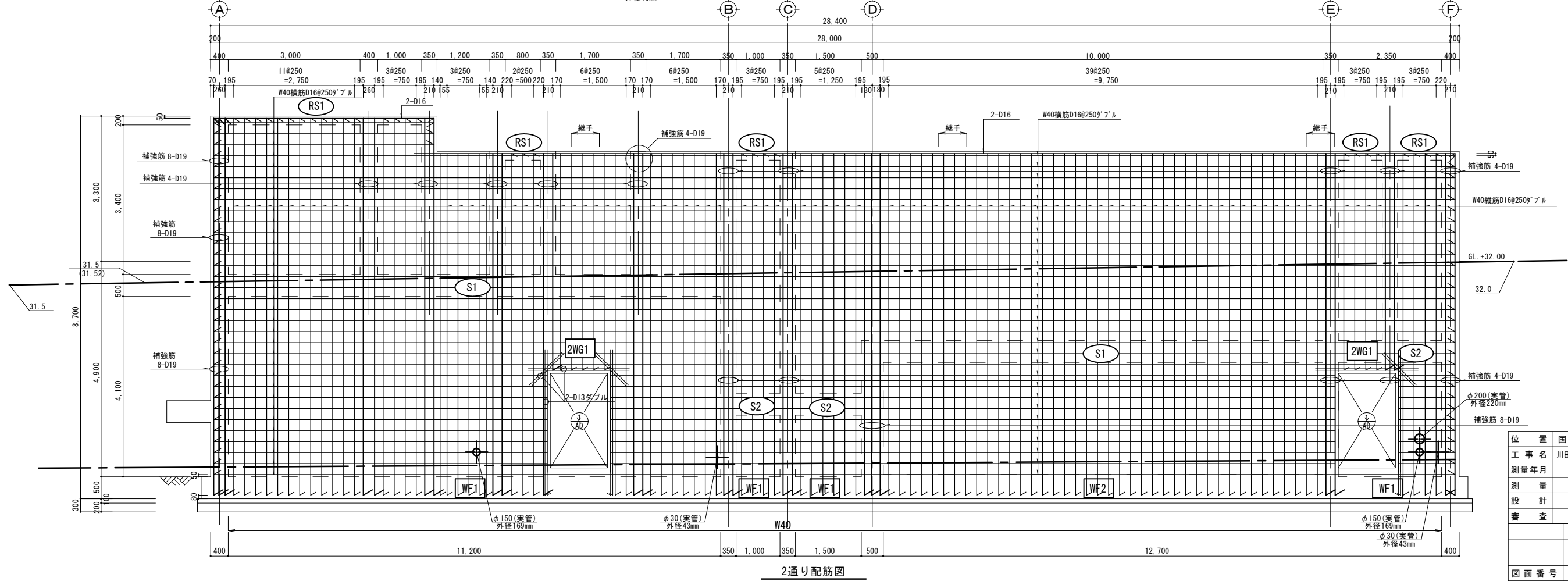
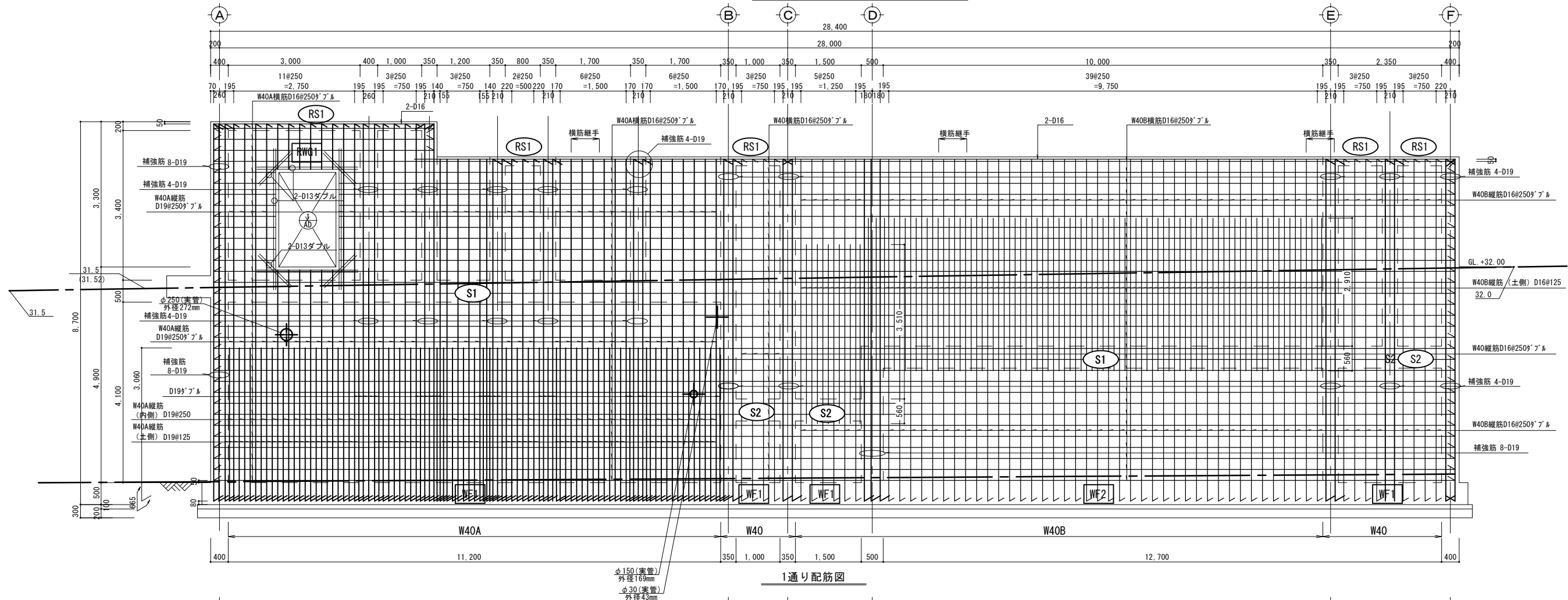
頂版上端筋



頂版下端筋

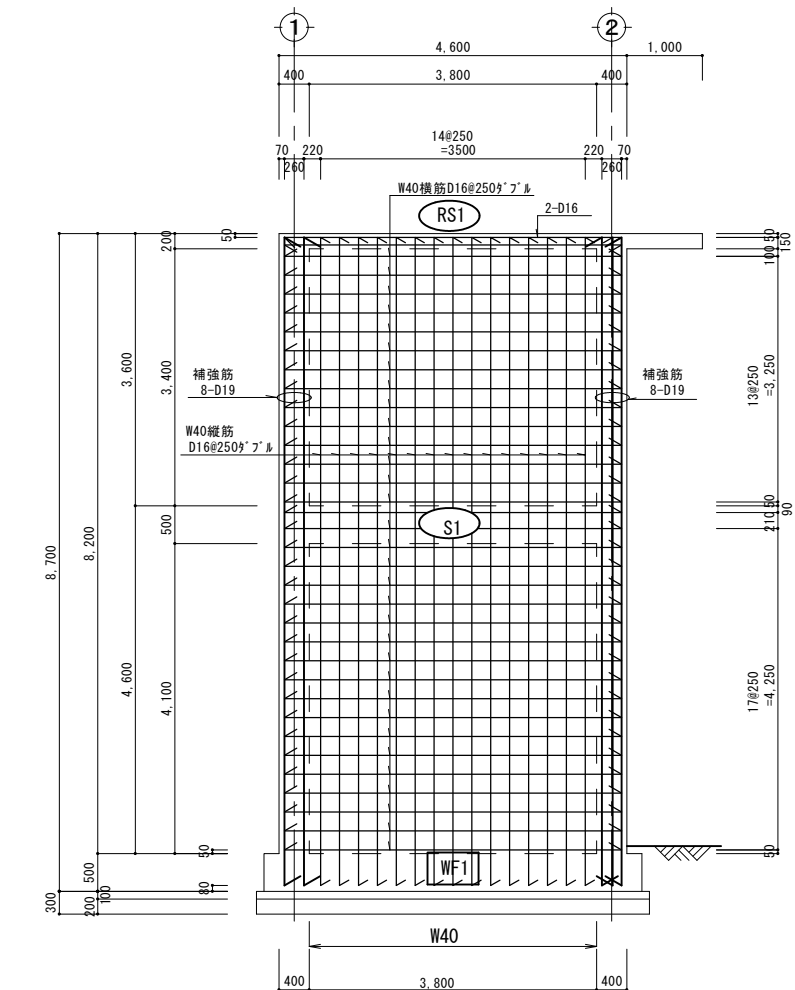
位 置	国 頭 郡 東 村 字 川 田 地 内		
工 事 名	川 田 浄 水 場 第 1 期 拡 充 工 事 ( 土 木 建 築 ) 凝 集 沈 殿 池		
測 量 年 月		図 面 説 明	配 筋 図 ( 6 / 9 ) S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)
測 量			
設 計			
審 査			
	課 長	課 長 補 佐	係
図 面 番 号	25 葉 中 22 葉		

凝集沈殿池 配筋図 (7)

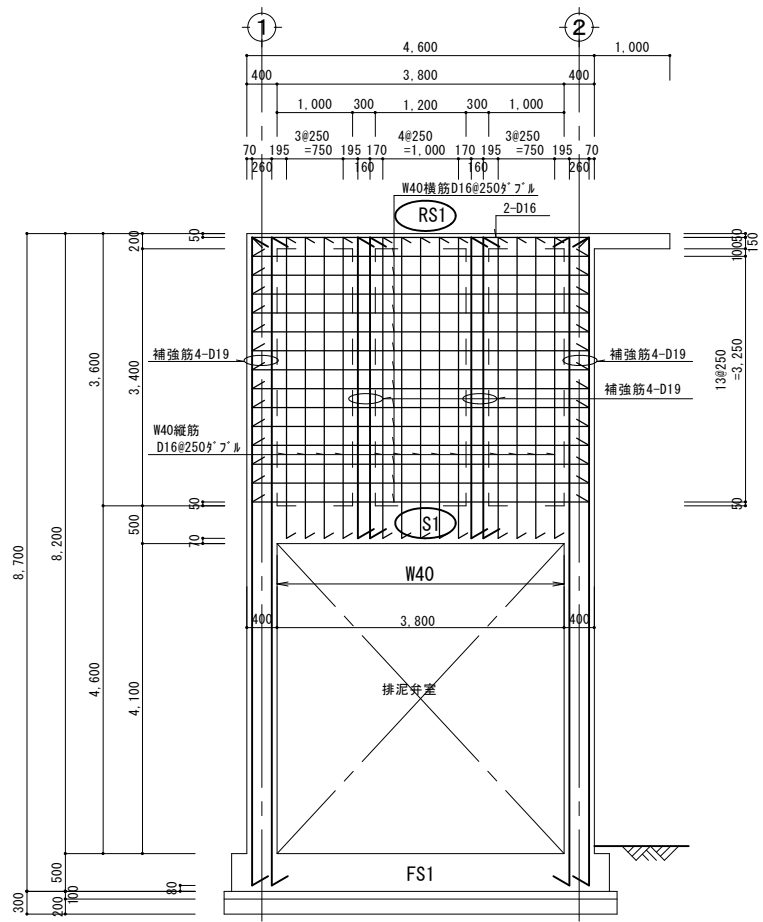


位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈殿池		
測量年月	図面説明	配筋図(7/9) S=1/50(A1) S=1/100(A3)	
測量			
設計			
審査	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉中 23 葉		

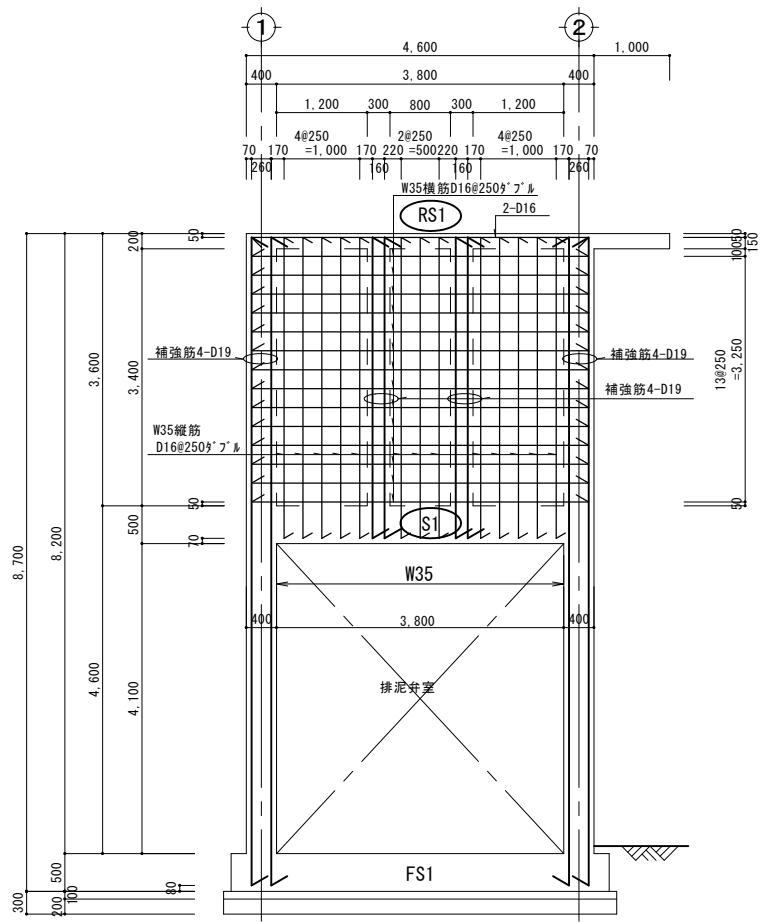
凝集沈殿池 配筋図 ( 8 )



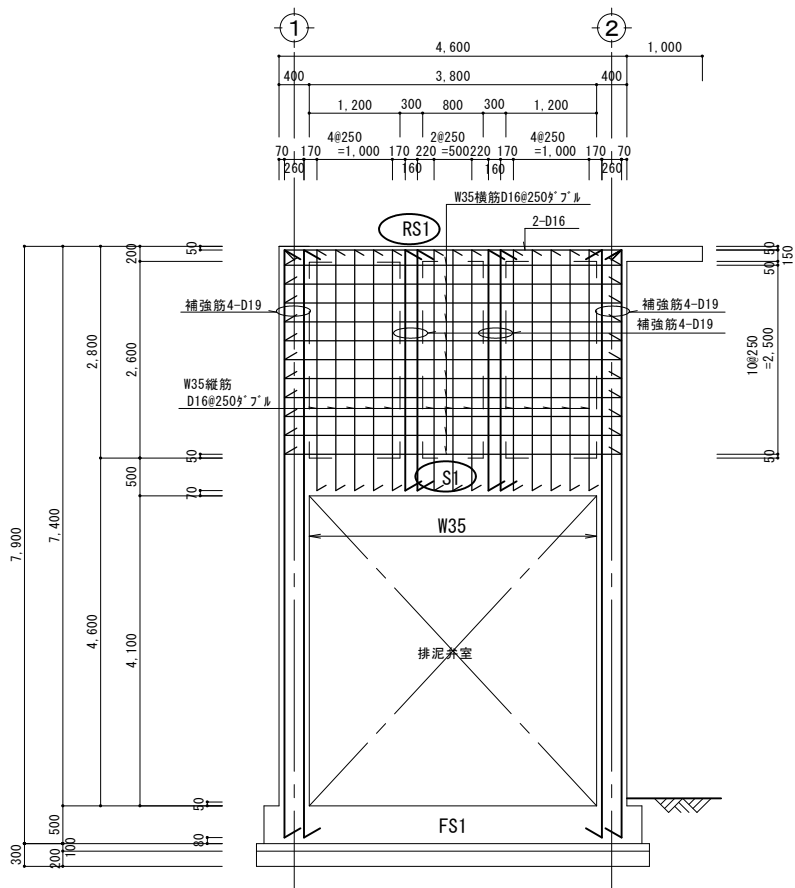
A通り配筋図



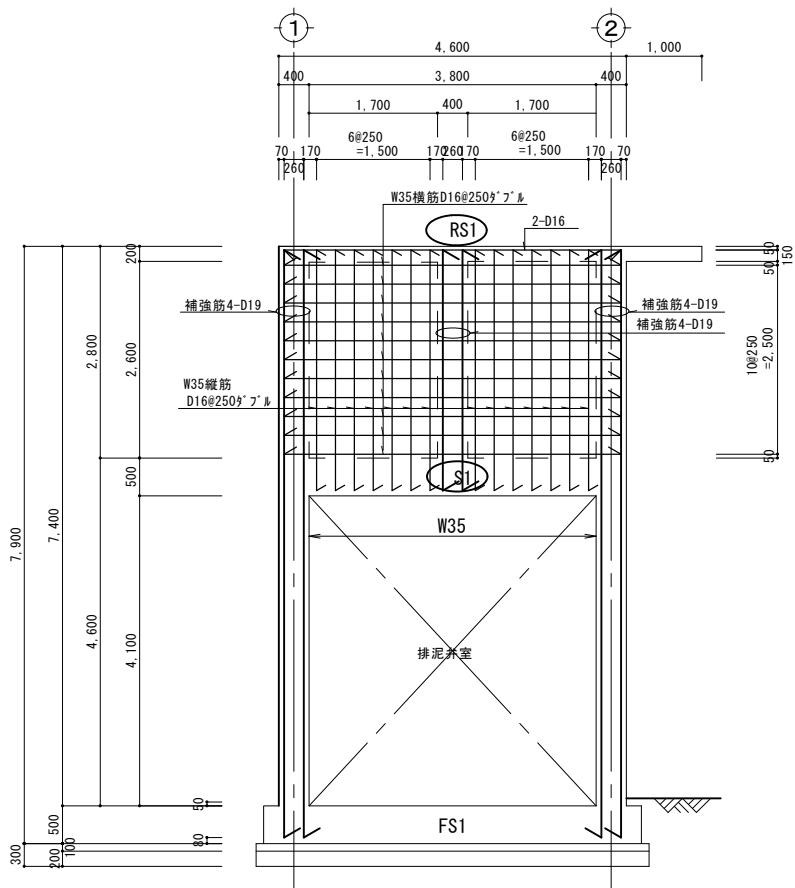
A通り+3400配筋図



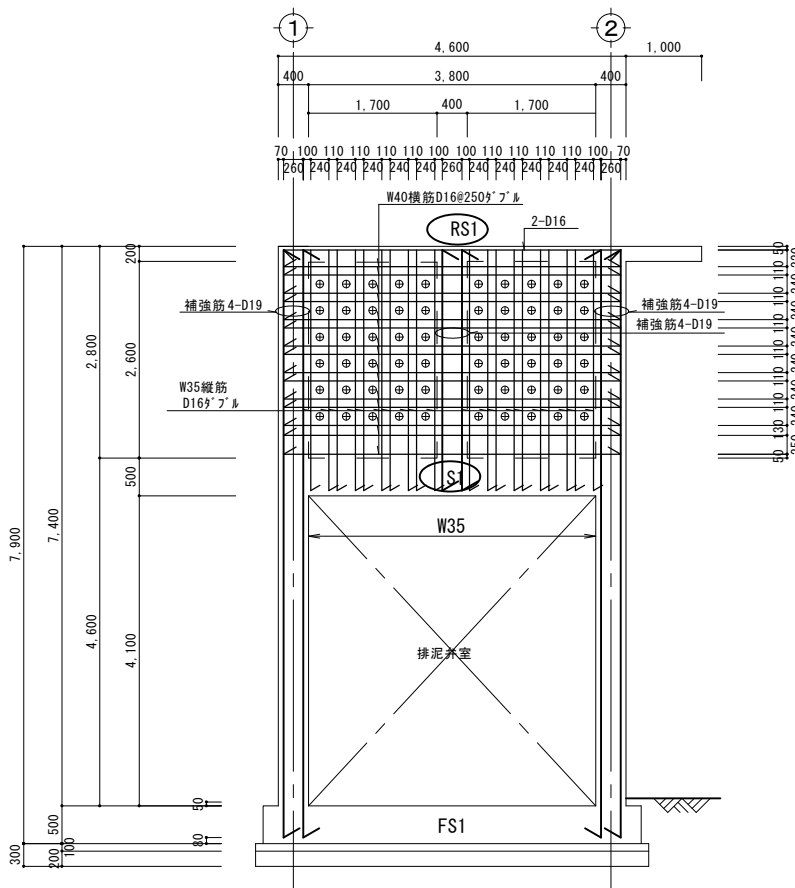
A通り+4775配筋図



A通り+6325配筋図



A通り+7475配筋図

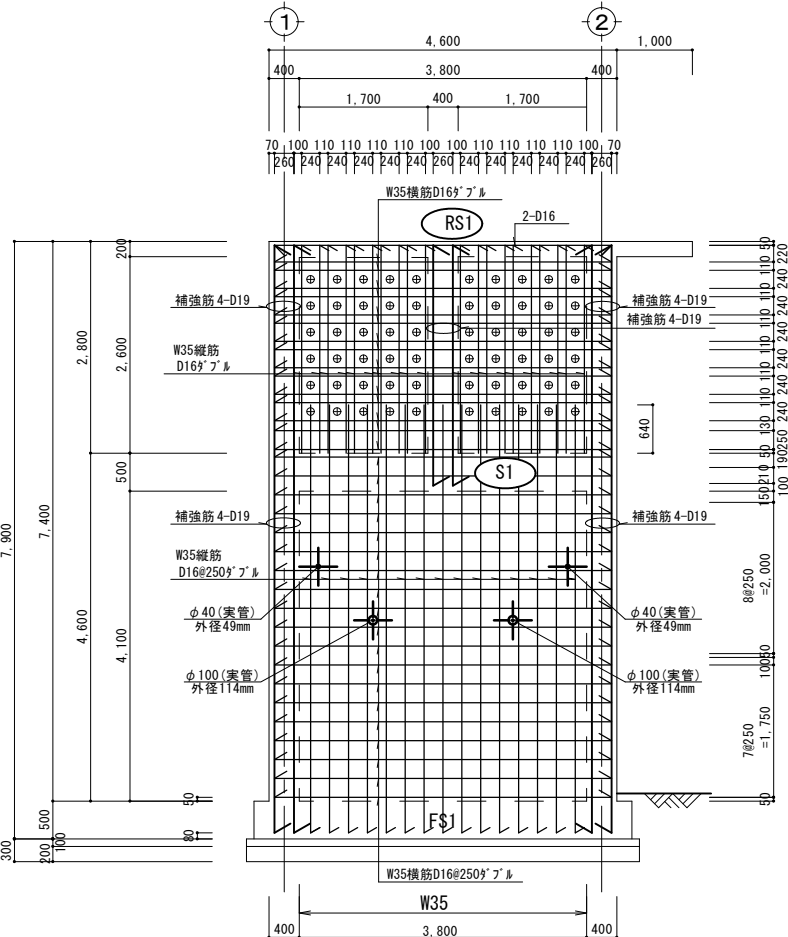


A通り+9525配筋図

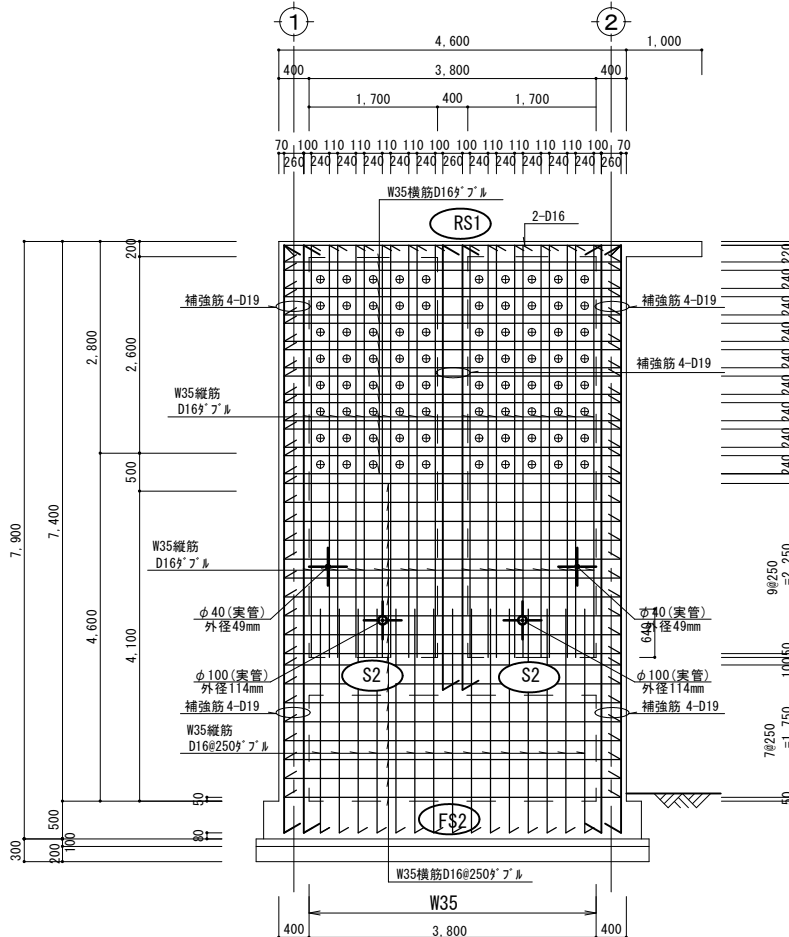
位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈殿池		
測量年月		図面説明	
測量		配筋図 ( 8 / 9 )	
設計		S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉 中 24 葉		



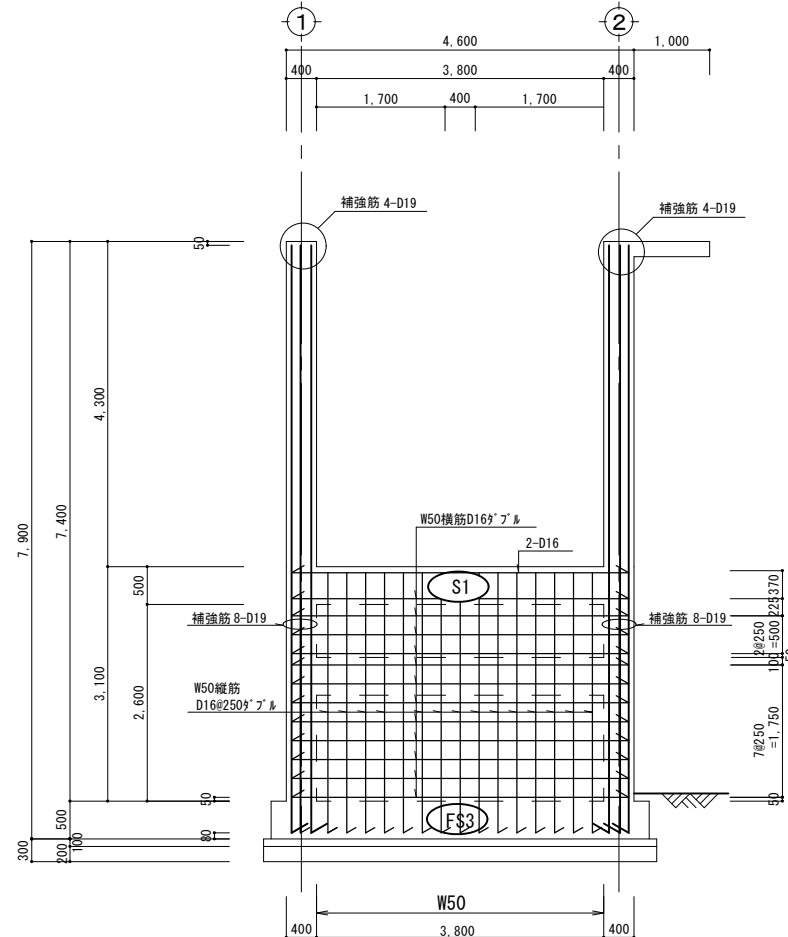
凝集沈殿池 配筋図 (9)



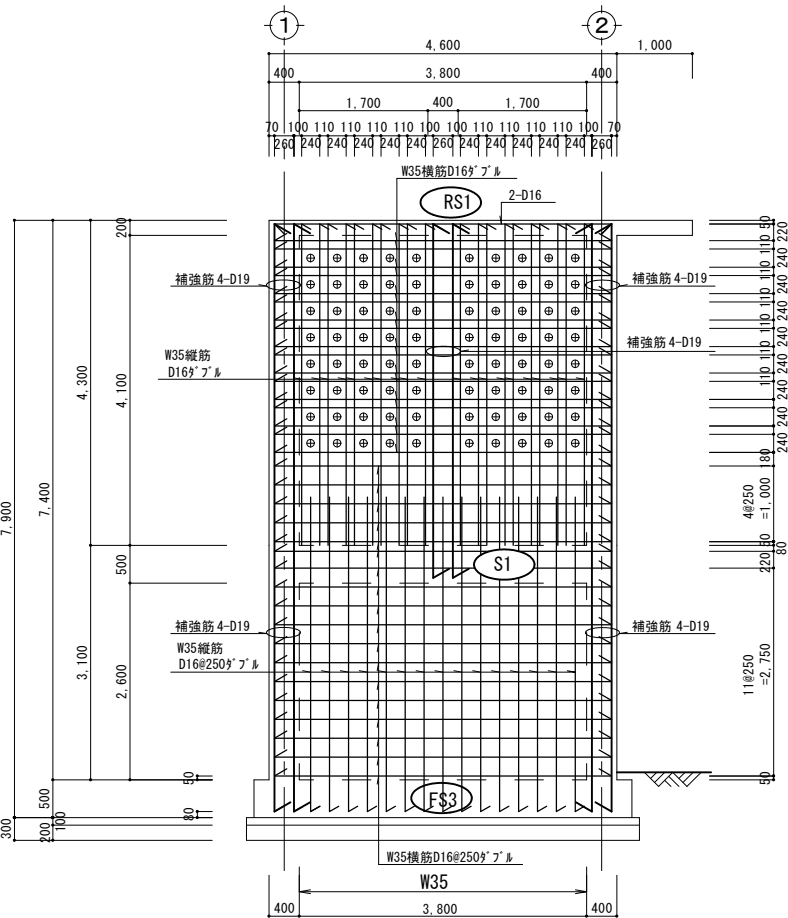
B通り配筋図



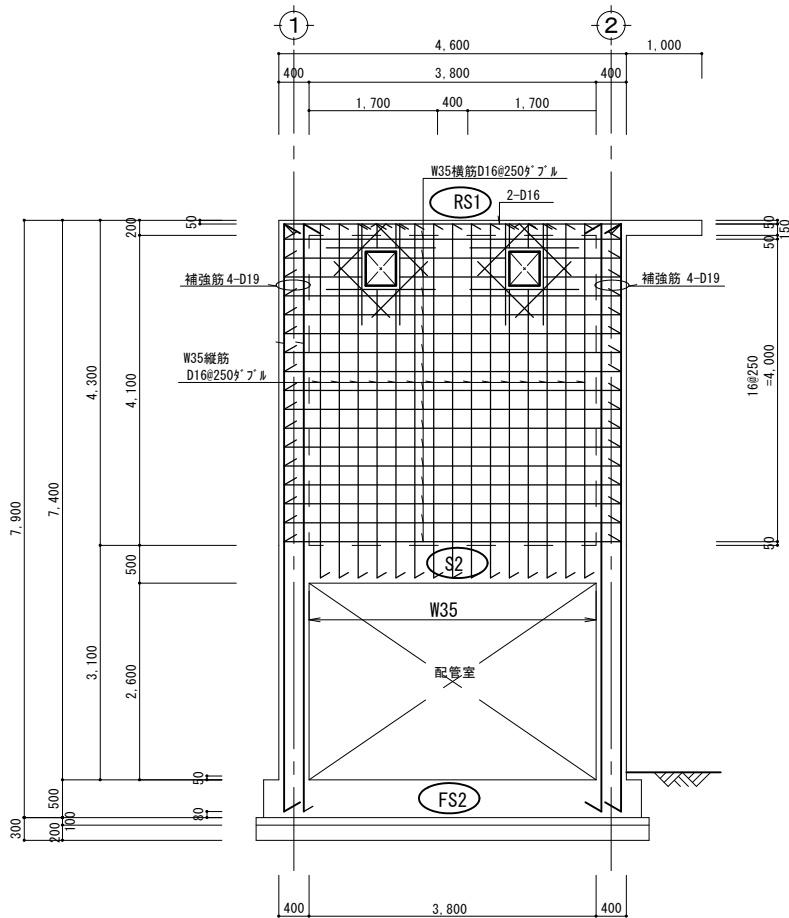
C通り配筋図



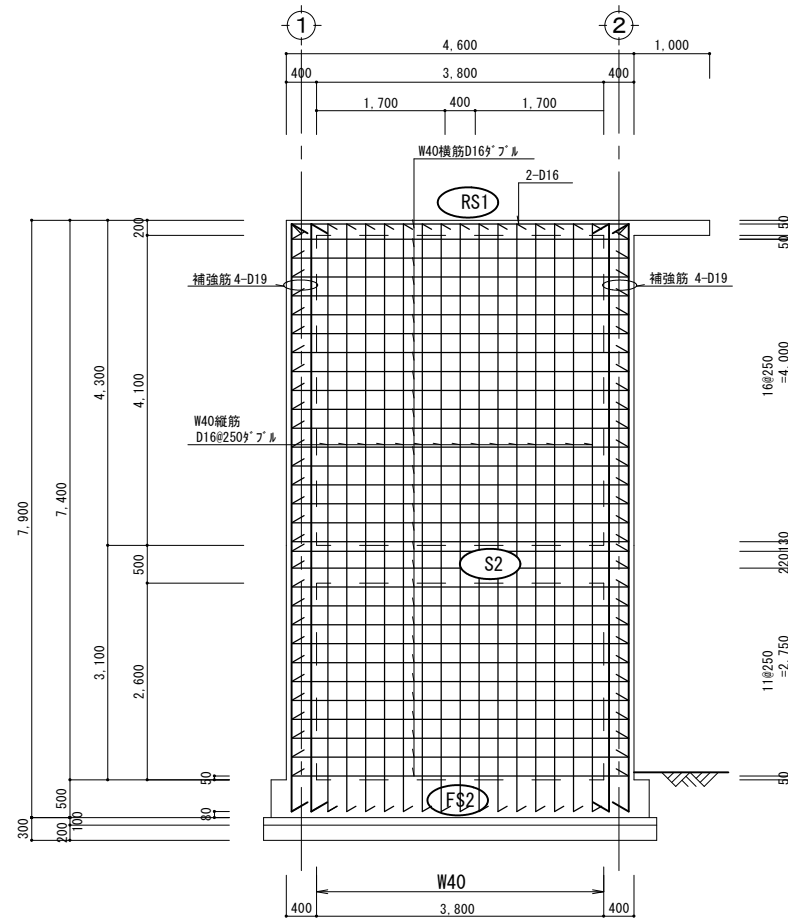
D通り配筋図



E通り配筋図



E通り+1350配筋図



F通り配筋図

位置	国頭郡東村字川田地内		
工事名	川田浄水場第1期拡張工事(土木建築)凝集沈殿池		
測量年月	図面説明	配筋図(9/9)	
測量			
設計			
審査			
	課長	課長補佐	係
図面番号	25 葉 中 25 葉		